

WAA22の事務的な経緯

(西内さんが参加されるとき以降)

◎西内さん

michio ozaki [michio1@jcom.home.ne.jp]

2014/05/19 (月) 20:25

'masanori horiuchi'

堀内さん

西内さん連絡つきました。6月5日(木)お昼に日本記者クラブに来ます。定食を食しながら午後1時半まで彼の知見を聞きましょう。同2時から北貢一さんのインタビュー、同4時から仏教を学ぶ会(尾崎)となります。

5月22日(木)は午後2時から堀内、岡本(乞う連絡)、尾崎で打ち合わせ。午後4時半からは藤井裕久氏の近現代史研究会と続きます。こんがらなきよう、また体調回復に努めて下さい。

以上のほか尾崎は5月21日(水)十文字女子学園大学講義、6月1日優勝のかかった早慶戦応援と「よく学び、よく遊ぶ」予定が入っています。ごきげんよう。尾崎

◎修正書類の送付

岡本 憲之 [okamoto@npo-jtta.jp]

2014/05/24 (土) 8:48

'michio ozaki'; 'masanori horiuchi'; 'Masahiko NISHIUCHI'

尾崎様、堀内様、西内様

岡本です。お世話になっております。

5月22日の日本記者クラブにおける打ち合わせを踏まえ、

WAA経緯、WA2会企画メモの修正版をお送り致します

高齢化に関する世界会議 (World Assembly on Aging、略称=WAA) 等について
(国連の動きと日本の動き)

1982年： 第1回WAAの開催 (於 オーストリア・ウィーン)

・「高齢化に関する国際行動計画」採択 (同年開催の第37回国連総会でも決議)

1990年： 毎年10月1日を国際高齢者デーと定めることを決議 (第45回国連総会)

- 1991年： 高齢者のための国連原則を採択（第46回国連総会）
 ・「高齢化に関する国際行動計画」を18項目に集約、高齢者の自立・参加・ケア・自己実現・尊厳の実現を5原則として掲げる
- 1992年： **1999年を国際高齢者年とする決議を採択（第47回国連総会）**
 ・1995年には、高齢化が多分野、多世代に関係するなど多様な問題であることを考慮して、「すべての世代のための社会をめざして」をテーマとして採用
- 1995年： **高齢社会対策基本法制定（日本）**
- 1996年： **高齢社会対策大綱策定（日本）**
- 1997年： 加盟各国にフォーカルポイントの設置を求める（第52回国連総会）
 ・日本のフォーカルポイント（窓口機関）は総務庁（後の内閣府）
- 1998年： 国連が活力・多様性・助け合い・運動・発展をイメージしたロゴマークを発表
- 1999年： **「国際高齢者年のフォローアップのための特別会議」開催（第54回国連総会）**
 ・「高齢化に関する国際行動計画」改定のための第2回WAAの開催を提案
- 2001年： **高齢社会対策大綱の見直し（日本）**
- 2002年： **第2回WAAの開催（スペイン・マドリード）**
 ・「高齢化に関する国際行動計画2002」（以下、行動計画2002）の採択を決定
 ・政治宣言を発表
- 2011年： 高齢化作業部会の設置と第1回実質会合（日本からは木村国連代表部公使）
- 2012年： **高齢社会対策大綱の見直し（日本）**
- 2012年： **第2回WAAのフォローアップ会議**
 ・A/RES/67/143を決議
- 2013年： 高齢化作業部会第4回実質会合（日本からは春木彰子書記官）
 ・
- 2022年： **第3回WAAの開催（日本？）**

高齢化に関する世界会議の日本開催を呼び掛ける報道人等の会（仮称）
 （企画メモ）

通称：WA2会

発起人：明石・・・+幹事会メンバー（報道関係者等）→代表＝明石（敬称略）

賛同者：WAAの理念と日本開催に賛同する著名人

例：秋山、上田、大方、大島、清家、辻、鳥原、樋口、堀田、三村・・・（50音順、敬称略）

賛同者を30～50名程度集めリストを作成する（公表の承諾を得る）

幹事会：発起人の中の実働メンバー

尾崎、堀内、西内、岡本・・・(幹事長＝尾崎、敬称略) →明石代表には適宜報告

事務局：企業や団体等の支援が得られる実務組織（人と場所、例：三菱総研、日本財団）

活動：WA2 会設立趣意書の作成（高齢化と平和、人口減と世代間連携等にも触れる）

WAA の経緯や内容、最新動向を紹介する文書の作成

呼び掛けシリーズ文書の発行（月刊）

第3回 WAA の中心テーマの検討（例：高齢者は次世代のために何ができるか）

第3回 WAA 開催に向けたイベント等の検討（例：シンポジウム、円卓会議）

国民世論の喚起

日本国政府（国連日本政府代表部を含む）、国連、政治家等への働きかけ

(注1)

(注2) 高齢化に関する世界会議＝World Assembly on Aging(略称:WAA)

(注3) 政治家(例:武見、林、上川、小泉進次郎、順不同、敬称略)

◎WA2 会.docx

16 KB

尾崎様、堀内様、西内様

岡本です。度々すみません。

企画メモの中の発起人と幹事会メンバーですが、

5月22日の打ち合わせで名前が出た方々を含め

たメモを再送信します。

高齢化に関する世界会議の日本開催を呼び掛ける報道人等の会（仮称）

（企画メモ）

通称：WA2 会

発起人：明石、海老沢、杉田、池上、林、尾崎、堀内、西内、岡本、村上（敬称略）

代表：明石（敬称略）

賛同者：WAA の理念と日本開催に賛同する著名人

例：秋山、上田、大方、大島、清家、辻、鳥原、樋口、堀田、三村・・・(50音順、敬称略)

賛同者を30～50名程度集めリストを作成する(公表の承諾を得る)

幹事会：発起人の中の実働メンバー

尾崎、堀内、西内、岡本、村上、池上、林

幹事長：尾崎(敬称略)→明石代表等には適宜報告、アドバイスを頂く

事務局：企業や団体等の支援が得られる実務組織(人と場所、例：三菱総研、日本財団)

活動：WA2会設立趣意書の作成(高齢化と平和、人口減と世代間連携等にも触れる)

WAAの経緯や内容、最新動向を紹介する文書の作成

呼び掛けシリーズ文書の発行(月刊)

第3回WAAの中心テーマの検討(例：高齢者は次世代のために何ができるか)

第3回WAA開催に向けたイベント等の検討(例：シンポジウム、円卓会議)

国民世論の喚起

日本国政府(国連日本政府代表部を含む)、国連、政治家等への働きかけ

(注4) 高齢化に関する世界会議=World Assembly on Aging(略称:WAA)

(注5) 政治家(例:武見、林、上川、小泉進次郎、順不同、敬称略)

◎情報提供

岡本 憲之 [okamoto@npo-jtta.jp]

2014/05/27(火) 14:43

'michio ozaki'; 'masanori horiuchi'; 'Masahiko NISHIUCHI'

尾崎様、堀内様、西内様

岡本です。お世話になっております。

過日申しあげました国立長寿医療研究センターと日経BPが共催している
アジアエイジングサミットの2013年開催の内容は下記サイトの通りです。

<http://www.nikkeibp.co.jp/aging/summit/2013/>

2011年から相当の規模で毎年開催しています。今年も11月頃開催すると思います。

◎高齢化世界会議の件

岡本 憲之 [okamoto@npo-jtta.jp]

2014/05/30 (金) 8:39

'michio ozaki'; 'masanori horiuchi'; 'Masahiko NISHIUCHI'

尾崎様、堀内様、西内様

岡本です。お世話になっております。

さて、6月5日の幹事会でご提案させて頂こうかと思っておりますが、2022年の高齢化世界会議に向けて、以下のようなスケジュールを想定するのは如何でしょうか？

2016年：高齢化首都圏会議開催（首都圏4知事+？が参加）

2018年：高齢化アジア会議開催（東アジア、東南アジア）

2020年：高齢化世界会議日本開催決定（オリンピック終了後に発表）

2022年：高齢化世界会議開催

上記のスケジュールを想定すると、先ず幹事会メンバー（尾崎、堀内、西内、岡本、村上+池上、林、・・・：幹事長＝尾崎）を固め、4知事に働きかけることから始めては如何かと思っておりますが？

また村上氏より、必要があれば幹事会を三菱総研の会議室で自由に行えるように手配するとの連絡がありました。

以上、ご提案まで

◎6月5日幹事会

岡本 憲之 [okamoto@npo-jtta.jp]

2014/06/01 (日) 11:29

'michio ozaki'; 'masanori horiuchi'; 'Masahiko NISHIUCHI'

尾崎様、堀内様、西内様

岡本です。先走って申し訳ありませんが、6月5日の日本記者クラブでの幹事会に向けて、「高齢化に関する世界会議」誘致の呼び掛け文の叩き台を作成してみました。当日は大いに叩いて頂ければ幸いです。

共通の課題 ー 「高齢化に関する世界会議」を首都圏で開催しよう

我が国は世界に先駆けて超高齢社会に突入しているが、高齢化は我が国のみならず世界的な流れであり、特に東アジアや東南アジアの新興国などは急速に高齢化が進んでいる。そして高齢化は、一方では医療技術の進歩と平和の証でもあり喜ばしいことだが、他方では医療・介護難民や世代間の対立など様々な問題を引き起こしていることも事実であり、それぞれの地域は差し迫った高齢化問題の解決を迫られている。

高齢化に伴って生じる問題とその解決策は地域の特性によって色々であるが、各地域での高齢化問題解決への取組は、他の地域での問題解決に向けた取組のヒントになることは間違いない。それゆえ高齢化に関する会議を開催し、地域間で課題を共有しながら解決策について議論する場を設けることは、世界的に生じている高齢化問題の解決に向けた重要な機会を与えることになる。

例えば高齢化と人口減少が同時に進む我が国では、それが経済や財政に与える影響について考え、その解決策を探ることが大きな課題となっている。虚弱高齢者のケアだけではなく、元気な高齢者の社会経済への参加を促す我が国の取組は、これから高齢化が進む他の国々でも大いに参考になるはずである。そこで、高齢化に関する地域間会議を、首都圏において三段階で開催することを提案する。

最初に 2016 年、「高齢化に関する首都圏会議」を開催する。急速に高齢化が進む大都市圏の課題を共有し、その解決策を探る。題してー首都圏エイジングサミッターの開催を働きかける。

次に 2018 年、「高齢化に関するアジア会議」を首都圏で開催する。日本を追いかけるように高齢化が進む東アジアや東南アジアなどの国々から関係者を首都圏に招き、日本の経験を伝えるなど活発な議論を展開する。題してーアジアエイジングサミッターの開催を呼び掛ける。

最終的に 2022 年、国連「第 3 回高齢化に関する世界会議」の首都圏開催を誘致する。オリンピック後の日本の大きな問題として、生産年齢人口の減少がクローズアップされることは必然である。いわゆる 2020 年問題である。その解決に向けた挑戦を通じて、名実ともに高齢化最先進国日本を世界に発信する場として「第 3 回高齢化に関する世界会議」は絶好の機会となる。

◎RE: 6 月 5 日幹事会

岡本 憲之 [okamoto@npo-jtta.jp]

2014/06/06 (金) 14:02

'masanori horiuchi'; 'Masahiko NISHIUCHI'

岡本です。

尾崎様

昨日はお打ち合わせ、また本日はご丁寧にメールを有難うございます。

尾崎様、堀内様、西内様

西内様からの情報提供で、国連の高齢化作業部会第 5 回実質会合が、今年の 7 月 30 日～8 月 1 日に開催されることが分かりました。

そこで改めて春木彰子氏の第 4 回実質会合（2013 年 8 月開催）の内容を読んだのですが（下記第 4 回実質会合の春木氏のステートメント参照）、11 年ぶりに我が国が高齢社会対策大綱の見直しを行ったことに触れているだけではなく、次の文章が強調されていました（当該部分をコピペ）。

we must alter our perception of older persons, the perception that older persons are invariably vulnerable,
and we must acknowledge how talented older persons are and how motivated they are to support their society.

これは世界会議を日本で開催する時のポイントになりそうです。つまり、高齢者を常に弱者として捉える視点だけではなく、高齢者が自身の能力を社会を支えるために活かす動機づけの視点も必要であることを同時に訴えていることです。例えば「高齢化と経済発展？」といったような視点です。今後先進国や新興経済発展国の重要なテーマになりそうです。

(注)

「高齢化に関する世界会議」の高齢化作業部会が2011年4月に設置され、その第1回実質会合の日本代表からのステートメントは以下の通り

http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/enzetsu/23/un_0418.html

第4回実質会合の春木彰子氏のステートメントは以下の通り

<http://www.un.emb-japan.go.jp/jp/statements/haruki081213.html>

From: michio ozaki [<mailto:michio1@jcom.home.ne.jp>]

Sent: Friday, June 06, 2014 10:23 AM

To: '岡本 憲之'

Subject: RE: 6月5日幹事会

岡本さん

西内さんへの経緯説明などで岡本案の叩き作業に時間避けませんでした。アイデアの出し合い、

呼吸を合わせる上で意味のある会合でした。ご苦勞様でした。尾崎

From: 岡本 憲之 [<mailto:okamoto@npo-jtta.jp>]

Sent: Sunday, June 01, 2014 11:29 AM

To: 'michio ozaki'; 'masanori horiuchi'; 'Masahiko NISHIUCHI'

Subject: 6月5日幹事会

尾崎様、堀内様、西内様

岡本です。先走って申し訳ありませんが、6月5日の日本記者クラブでの幹事会に向けて、「高齢化に関する世界会議」誘致の呼び掛け文の叩き台を作成してみました。

当日は大いに叩いて頂ければ幸いです。

◎Re: 高齢化の情報です

Masahiko NISHIUCHI [mnishi@mtd.biglobe.ne.jp]

2014/06/07 (土) 8:56

岡本 憲之; 'michio ozaki'

'masanori horiuchi'

西内です。

厚生労働省の ASEAN アクティブエイジングの地域会合の情報です。
日本の経験をアジアに伝えるプロジェクトが動き出すことになりそうです。

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000047645.html>

以上

From: [岡本 憲之](#)
Sent: Friday, June 06, 2014 2:01 PM
To: '[michio ozaki](#)'
Cc: '[masanori horiuchi](#)'; '[Masahiko NISHIUCHI](#)'
Subject: RE: 6月5日幹事会

岡本です。

尾崎様

昨日はお打ち合わせ、また本日はご丁寧なメールを有難うございます。

尾崎様、堀内様、西内様

西内様からの情報提供で、国連の高齢化作業部会第5回実質会合が、
今年の7月30日～8月1日に開催されることが分かりました。

そこで改めて春木彰子氏の第4回実質会合（2013年8月開催）の内容を
読んだのですが（下記第4回実質会合の春木氏のステートメント参照）、
11年ぶりに我が国が高齢社会対策大綱の見直しを行ったことに触れてい
るだけではなく、次の文章が強調されていました（当該部分をコピー）。

we must alter our perception of older persons, the perception that older persons are
invariably vulnerable,
and we must acknowledge how talented older persons are and how motivated they are
to support their society.

これは世界会議を日本で開催する時のポイントになりそうです。つまり、

高齢者を常に弱者として捉える視点だけではなく、高齢者が自身の能力を社会を支えるために活かす動機づけの視点も必要であることを同時に訴えていることです。例えば「高齢化と経済発展？」といったような視点です。今後先進国や新興経済発展国の重要なテーマになりそうです。

(注)

「高齢化に関する世界会議」の高齢化作業部会が2011年4月に設置され、その第1回実質会合の日本代表からのステートメントは以下の通り

http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/enzetsu/23/un_0418.html

第4回実質会合の春木彰子氏のステートメントは以下の通り

<http://www.un.emb-japan.go.jp/jp/statements/haruki081213.html>

From: michio ozaki [<mailto:michio1@jcom.home.ne.jp>]

Sent: Friday, June 06, 2014 10:23 AM

To: '岡本 憲之'

Subject: RE: 6月5日幹事会

岡本さん

西内さんへの経緯説明などで岡本案の叩き作業に時間避けませんでした。アイデアの出し合い、

呼吸を合わせる上で意味のある会合でした。ご苦勞様でした。尾崎

From: 岡本 憲之 [<mailto:okamoto@npo-jtta.jp>]

Sent: Sunday, June 01, 2014 11:29 AM

To: 'michio ozaki'; 'masanori horiuchi'; 'Masahiko NISHIUCHI'

Subject: 6月5日幹事会

尾崎様、堀内様、西内様

岡本です。先走って申し訳ありませんが、6月5日の日本記者クラブでの幹事会に向けて、「高齢化に関する世界会議」誘致の呼び掛け文の叩き台を作成してみました。当日は大いに叩いて頂ければ幸いです。

◎RE: 高齢化の情報です

岡本 憲之 [okamoto@npo-jtta.jp]

2014/06/07 (土) 13:48

'Masahiko NISHIUCHI'; 'michio ozaki'

'masanori horiuchi'

皆様

岡本です。西内様、情報の提供有難うございます。

健康と参加と安全を柱とする「アクティブエイジング」の概念は、
どうやら今後の高齢化世界会議の中心的なテーマになりそうです。

例えば、欧州連合（EU）は 2012 年を

「アクティブエイジングと世代間の連帯のための欧州年」

と定めています（下記 URL 参照）

<http://eumag.jp/feature/b0412/>

アクティブエイジングの考え方については、WHO が 2002 年の第
2 回高齢化世界会議を受けて策定したレポートに詳しく記述され
ています（下記 URL）

http://whqlibdoc.who.int/hq/2002/WHO_NMH_NPH_02.8_jpn.pdf

From: Masahiko NISHIUCHI [<mailto:mnishi@mtd.biglobe.ne.jp>]

Sent: Saturday, June 07, 2014 8:56 AM

To: 岡本 憲之; 'michio ozaki'

Cc: 'masanori horiuchi'

Subject: Re: 高齢化の情報です

西内です。

厚生労働省の ASEAN アクティブエイジングの地域会合の情報です。

日本の経験をアジアに伝えるプロジェクトが動き出すことになりそうです。

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000047645.html>

以上

From: [岡本 憲之](#)

Sent: Friday, June 06, 2014 2:01 PM

To: ['michio ozaki'](#)

Cc: 'masanori_horiuchi'; '[Masahiko NISHIUCHI](mailto:Masahiko_NISHIUCHI)'

Subject: RE: 6月5日幹事会

岡本です。

尾崎様

昨日はお打ち合わせ、また本日はご丁寧にメールを有難うございます。

尾崎様、堀内様、西内様

西内様からの情報提供で、国連の高齢化作業部会第5回実質会合が、今年の7月30日～8月1日に開催されることが分かりました。

そこで改めて春木彰子氏の第4回実質会合（2013年8月開催）の内容を読んだのですが（下記第4回実質会合の春木氏のステートメント参照）、11年ぶりに我が国が高齢社会対策大綱の見直しを行ったことに触れているだけでなく、次の文章が強調されていました（当該部分をコピー）。

we must alter our perception of older persons, the perception that older persons are invariably vulnerable,
and we must acknowledge how talented older persons are and how motivated they are to support their society.

これは世界会議を日本で開催する時のポイントになりそうです。つまり、高齢者を常に弱者として捉える視点だけではなく、高齢者が自身の能力を社会を支えるために活かす動機づけの視点も必要であることを同時に訴えていることです。例えば「高齢化と経済発展？」といったような視点です。今後先進国や新興経済発展国の重要なテーマになりそうです。

（注）

「高齢化に関する世界会議」の高齢化作業部会が2011年4月に設置され、その第1回実質会合の日本代表からのステートメントは以下の通り

http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/enzetsu/23/un_0418.html

第4回実質会合の春木彰子氏のステートメントは以下の通り

<http://www.un.emb-japan.go.jp/jp/statements/haruki081213.html>

From: michio ozaki [<mailto:michio1@jcom.home.ne.jp>]

Sent: Friday, June 06, 2014 10:23 AM

To: '岡本 憲之'

Subject: RE: 6月5日幹事会

岡本さん

西内さんへの経緯説明などで岡本案の叩き作業に時間避けませんでした。アイデアの出し合い、

呼吸を合わせる上で意味のある会合でした。ご苦労様でした。尾崎

From: 岡本 憲之 [<mailto:okamoto@npo-jtta.jp>]

Sent: Sunday, June 01, 2014 11:29 AM

To: 'michio ozaki'; 'masanori horiuchi'; 'Masahiko NISHIUCHI'

Subject: 6月5日幹事会

尾崎様、堀内様、西内様

岡本です。先走って申し訳ありませんが、6月5日の日本記者クラブでの幹事会に向けて、「高齢化に関する世界会議」誘致の呼び掛け文の叩き台を作成してみました。当日は大いに叩いて頂ければ幸いです。

◎高齢化世界会議誘致の呼び掛け趣意書

岡本 憲之 [okamoto@npo-jtta.jp]

2014/06/11 (水) 10:37

'michio ozaki'; 'masanori horiuchi'; 'Masahiko NISHIUCHI'

尾崎様、堀内様、西内様

岡本です。お世話になっております。

過日ご提出した提案を、6月5日幹事会のご意見を踏まえ、加筆修正しましたので、添付ファイルにてお送り致します。

今回は、本文の提案に加え、提案の背景を作成しましたので、A4で2頁となっております。

新たな叩き台として叩いて頂ければ幸いです。

提案 共通の課題－「高齢化に関する世界会議」を首都圏で開催しよう

我が国は世界に先駆けて超高齢社会に突入しているが、高齢化は我が国のみならず世界的な流れであり、特に東アジアや東南アジアの新興国などは急速に高齢化が進んでいる。そして高齢化は、一方では経済発展と医療技術の進歩、さらに平和の証でもあり喜ばしいことだが、他方では医療・介護難民や世代間の対立など様々な問題を引き起こしていることも事実であり、それぞれの地域は差し迫った高齢化問題の解決を迫られている。

高齢化に伴って生じる問題とその解決策は地域の特性によって色々であるが、各地域での高齢化問題解決への取組は、他の地域での問題解決に向けた取組のヒントになることは間違いない。それゆえ高齢化に関する会議を開催し、地域間で課題を共有しながら解決策について議論する場を設けることは、世界的に生じている高齢化問題の解決に向けた重要な機会を与えることになる。

例えば高齢化と人口減少が同時に進む我が国では、それが経済や財政に与える影響について考え、その解決策を探ることが大きな課題となっている。虚弱高齢者のケアだけでなく、できる限り高齢者の社会経済への参加を促す我が国の取組は、これから高齢化が進む他の国々でも大いに参考になるはずである。そこで、高齢化に関する地域間会議を、首都圏において三段階で開催することを提案する。

最初に 2016 年、「高齢化に関する首都圏会議」を開催する。急速に高齢化が進む大都市圏の課題を共有し、その解決策を探る。題して－首都圏エイジングサミッターの開催を働きかける。

次に 2018 年、「高齢化に関するアジア会議」を首都圏で開催する。日本を追いかけるように高齢化が進む東アジアや東南アジアなどの国々から関係者を招き、日本の経験を伝えるなど活発な議論を展開する。題して－アジアエイジングサミッターの開催を呼び掛ける。

最終的に 2022 年、国連「第 3 回高齢化に関する世界会議」の首都圏開催を誘致する。オリンピック後の日本の大きな問題として、生産年齢人口の減少がクローズアップされることは必然である。いわゆる 2020 年問題である。その解決に向けた挑戦を通じて、名実ともに高齢化最先進国日本を世界に発信する場として－第 3 回高齢化に関する世界会議－は絶好の機会となる。

提案の背景

高齢化に関する世界会議 (World Assembly on Aging) が最初に開催されたのは 1982 年、

オーストリアのウィーンであった。当時の日本の高齢化率は9%台で、高齢化問題に関する人々の関心はまだそれほど高くなかった。

それから20年後の2002年、スペインのマドリードで第2回世界会議が開催された。この間、日本では急速に高齢化が進み、高齢化率は18.5%に達していた。そのため日本政府は、1995年に高齢社会対策基本法を制定、翌1996年には高齢社会対策大綱を策定した。

しかし、その後も高齢化の勢いは止まらず、さらに少子化も加わって、日本は遂に人口減少社会に突入することになった。このままでは、医療や介護、年金といった社会保障制度の維持が困難になるのではないかとの危機感から、我が国は社会の仕組みや制度の抜本的な見直しを迫られている。

実際2012年、11年ぶりに見直された高齢社会対策大綱は、それまでの高齢者の見方を大きく転換するものであった。すなわち高齢者を一方的に支えられる弱者として捉えるのではなく、少なくとも元気な高齢者は社会を支える側に回るべきであるとの考え方が強く打ち出された。

この高齢者に関する認識の転換は、先進国を中心に世界的にも潮流となってきている。例えば、欧州連合（EU）では、2012年を「アクティブ・エイジングと世代間の連帯のための欧州年」と定め、高齢化社会への対応を抜本的に見直そうとしている。すなわち、若者が高齢者を支えるという従来の社会通念から脱し、老若共に支え合う社会へのパラダイム転換を目指すとしている。

次の高齢化に関する世界会議が開催される2022年には、日本は言うに及ばず世界的にも一層高齢化が進み、高齢化問題は各国共通の課題となつてこよう。そして先進国だけではなく経済発展が進む新興国においても、高齢者を常に支えられるだけの弱者として見るのではなく、高齢者も社会を支える一員となるべきとの認識が浸透していくのではないか。その時こそ、高齢化で一步先を行く日本は、すべての世代が支え合うアクティブ・エイジング社会に向けた先駆的取組を通じて、自国の経験を世界に発信することができる。それは単なる国際貢献を超えて、世界共通の課題を解決することから生まれる我が国の新たな発展の機会となるであろう。

©Masahiko NISHIUCHI [mnishi@mtd.biglobe.ne.jp]

2014/06/11 (水) 11:24

尾崎 美千生

堀内 正範; 岡本 憲之

尾崎様、堀内様、岡本様

風邪気味でノドが痛いので、申し訳ありませんが、12日の幹事会は欠席させていただきます。

よろしく申し上げます。

岡本さんの呼び掛け文をいただきました。堀内さんの「月間丈風」の中にも、招致に関する文章がありました。

是非、統合して頂きたく思います。

ご参考までに。

厚生労働省の国際的な Active Ageing に関する検討会の報告書が出ています。

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000041697.html>

国連の高齢化に関する最新のデータが出ています。

<http://www.un.org/en/development/desa/population/publications/ageing/WorldPopulationAgeing2013.shtml>

西内正彦

◎提案の趣意書（叩き台）の修正

岡本 憲之 [okamoto@npo-jtta.jp]

2014/06/14 (土) 10:58

'michio ozaki'; 'masanori horiuchi'; 'Masahiko NISHIUCHI'

尾崎様、堀内様、西内様

岡本です。提案の趣意書を修正しました。

さらに叩いて頂ければ幸いです。

提案 共通の課題－「高齢化に関する世界会議」を首都圏で開催しよう

我が国は世界に先駆けて超高齢社会に突入しているが、高齢化は我が国のみならず世界的な流れであり、特に東アジアや東南アジアの新興国などは急速に高齢化が進んでいる。そして高齢化は、一方では経済発展と医療技術の進歩、さらに平和の証でもあり喜ばしい

ことだが、他方では医療・介護難民や世代間の対立など様々な問題を引き起こしていることも事実である。それぞれの地域は差し迫った高齢化問題の解決を迫られている。

高齢化に伴って生じる問題とその解決策は地域の特性によって色々であるが、各地域での高齢化問題解決への取組は、他の地域での問題解決に向けた取組のヒントになることは間違いない。それゆえ高齢化に関する会議を開催し、地域間で課題を共有しながら解決策について議論する場を設けることは、高齢化問題の解決に向けた重要な機会を与えることになる。

例えば高齢化と人口減少が同時に進む我が国では、それが経済や財政に与える影響について考え、その解決策を探ることが大きな課題となっている。虚弱高齢者のケアだけではなく、できる限り高齢者の社会経済への参加を促す我が国の取組は、これから高齢化が進む他の国々でも大いに参考になるはずである。そこで、高齢化に関する地域間会議を、日本において三段階で開催することを提案する。

まず 2016 年、日本の「高齢化に関する大都市圏と地方の問題」を取り上げる。急速に高齢化が進む大都市圏と既に人口減少が始まっている地方の課題を共有し、その解決策を探るー日本エイジングサミットの開催を働きかける。

次に 2018 年、「高齢化に関するアジアの問題」を取り上げる。日本を迫りかけるように高齢化が進む東アジアや東南アジアなどの国々から関係者を招き、我が国の経験を伝えるなど活発な議論を展開するーアジアエイジングサミットの開催を呼び掛ける。

最終的に 2022 年、国連「第 3 回高齢化に関する世界会議」の首都圏開催を誘致する。オリンピック後の日本の大きな問題として、生産年齢人口の減少がクローズアップされることは必然である。いわゆる 2020 年問題である。その解決に向けた挑戦を通じて、名実ともに高齢化最先進国日本を世界に発信する場としてー第 3 回高齢化に関する世界会議ーは絶好の機会となる。

提案の背景

高齢化に関する世界会議 (World Assembly on Aging) が最初に開催されたのは 1982 年、オーストリアのウィーンであった。当時の日本の高齢化率は 9% 台で、高齢化問題に関する人々の関心はまだそれほど高くなかった。

それから 20 年後の 2002 年、スペインのマドリードで第 2 回世界会議が開催された。この間、日本では急速に高齢化が進み、高齢化率は 18.5% に達していた。そのため日本政府

は、1995年に高齢社会対策基本法を制定、翌1996年には高齢社会対策大綱を策定した。

しかし、その後も高齢化の勢いは止まらず、さらに少子化も加わって、日本は遂に人口減少社会に突入することになった。このままでは、医療や介護、年金といった社会保障制度の維持が困難になるのではないかとの危機感から、我が国は社会の仕組みや制度の抜本的な見直しを迫られている。

実際2012年、11年ぶりに見直された高齢社会対策大綱は、それまでの高齢者の見方を大きく転換するものであった。すなわち高齢者を一方的に支えられる弱者として捉えるのではなく、少なくとも元気な高齢者は社会を支える側に回るべきであるとの考え方が強く打ち出された。

この高齢者に関する認識の転換は、先進国を中心に世界的にも潮流となってきている。例えば、欧州連合（EU）では、2012年を「アクティブ・エイジングと世代間の連帯のための欧州年」と定め、高齢化社会への対応を抜本的に見直そうとしている。すなわち、若者が高齢者を支えるという従来の社会通念から脱し、老若共に支え合う社会へのパラダイム転換を目指すとしている。

次の高齢化に関する世界会議が開催される2022年には、日本は言うに及ばず世界的にも一層高齢化が進み、高齢化問題は各国共通の課題となつてこよう。そして先進国だけではなく経済発展が進む新興国においても、高齢者を常に支えられるだけの弱者として見るのではなく、高齢者も社会を支える一員となるべきとの認識が浸透していくのではないか。その時こそ、高齢化で一步先を行く日本は、すべての世代が支え合うアクティブ・エイジング社会に向けた先駆的取組を通じて、自国の経験を世界に発信することができる。それは単なる国際貢献を超えて、世界共通の課題を解決することから生まれる我が国の新たな発展の機会となる。

◎情報です

Masahiko NISHIUCHI [mnishi@mtd.biglobe.ne.jp]

2014/06/16 (月) 11:29

尾崎 美千生

堀内 正範; 岡本 憲之

皆様

JICA が高齢化と国際人口移動に関するシンポジウムを開いたという報告が出ています。

http://jica-ri.jica.go.jp/ja/topic/post_119.html?alert=20140616

尾崎さん

土曜日の人口学会の少子化に関する公開シンポで、河野さん、内野さん、山口さんに会いました。

河野さんに「尾崎さんは元気？」と尋ねられたので、「2022年に第3回高齢化に関する世界」を日本の招致しようと検討している旨を話すと、「僕には少し先の話だな」と言っていました。

最近、足が少し弱くなったとのことですが、昼食は山の上ホテルで天ぷら定食だったというから、食欲は以前のように大丈夫かと…。

西内正彦

◎RE: 情報です

岡本 憲之 [okamoto@npo-jtta.jp]

2014/06/16 (月) 12:58

'Masahiko NISHIUCHI'; '尾崎 美千生'

'堀内 正範'

西内様、皆様

岡本です。JICA の情報提供、有難うございます。

高齢化に関してはいくつか重要なテーマがありますが、高齢化（日本の場合人口減少が同時進行）と経済成長（開発）といったテーマもその1つかと考えています。

吉川洋氏は、高齢化（人口減少）と経済成長との間には強い相関は無いと言っています。むしろ経済成長に影響を与えるのは人口移動であるとも。例えば戦後の高度成長は主として都市への人口移動に伴う世帯数の増加がもたらしたと（各世帯に三種の神器が普及）。いずれにしても高齢化（人口減少）と経済成長との関係をテーマにした議論は重要で、特に大都市圏と地方との関係をテーマにした国内会議（2016年？）の主要

な議題になるのではないのでしょうか？

-----Original Message-----

From: Masahiko NISHIUCHI [<mailto:mnishi@mtd.biglobe.ne.jp>]

Sent: Monday, June 16, 2014 11:29 AM

To: 尾崎 美千生

Cc: 堀内 正範; 岡本 憲之

Subject: 情報です

皆様

JICA が高齢化と国際人口移動に関するシンポジウムを開いたという報告が出ています。

http://jica-ri.jica.go.jp/ja/topic/post_119.html?alert=20140616

尾崎さん

土曜日の人口学会の少子化に関する公開シンポで、河野さん、内野さん、山口さんに会いました。

河野さんに「尾崎さんは元気？」と尋ねられたので、「2022年に第3回高齢化に関する世界」を日本の招致しようと検討している旨を話すと、「僕には少し先の話だな」と言っていました。

最近、足が少し弱くなったとのことですが、昼食は山の上ホテルで天ぷら定食だったというから、食欲は以前のように大丈夫かと…。

西内正彦

◎ 7月7日実務者会議（仮）の件

岡本 憲之 [okamoto@npo-jtta.jp]

2014/06/16 (月) 16:19

masanori horiuchi

尾崎様、堀内様

岡本です。

次回実務者会議の件、仮に7月7日 15:00~17:30

で宜しければ、三菱総研で21名用の会議室が使用可能です。

◎次回？実務者会議の仮設定の件

岡本 憲之 [okamoto@npo-jtta.jp]

2014/06/16 (月) 21:22

'michio ozaki'; '堀内 正範'; 'Masahiko NISHIUCHI'

尾崎様、堀内様、西内様

岡本です。次回？の実務者会議を仮に下記の通り設定してみました。

日時：7月7日 15:00~17:30

場所：三菱総研会議室（21人収容可能、地図は下記URLを参照）

http://www.mri.co.jp/company/info/office/headoffice_map.html

出席者（予定？）

尾崎、堀内、西内、岡本

+

村上（三菱総研）

池上（元人口基金）

林（社人研）

志藤（長寿センター）

.....

当日は皆様にご出席頂けるよう誘いをかけては如何でしょうか？

◎志藤洋子氏の件

岡本 憲之 [okamoto@npo-jtta.jp]

2014/06/18 (水) 18:42

'michio ozaki'; '堀内 正範'; 'Masahiko NISHIUCHI'

尾崎様、堀内様、西内様

岡本です。過日申し上げましたように実務者会議のメンバーとして、国際長寿センターの志藤洋子事務局長にご参加頂くのはどうかと思ったのですが、志藤氏の高齢化に関する考え方を述べた論考がありましたので、参考のため添付ファイルにてお送りします。高齢化に関する世界会議にも言及しており、しっかりした考え方を持っているようですので、ご検討頂ければ幸いです。(本人にはまだ参加の打診をしておりません)



ka50_03.pdf

◎志藤氏は参加の意向です

岡本 憲之 [okamoto@npo-jtta.jp]

2014/06/20 (金) 18:56

'michio ozaki'; '堀内 正範'; 'Masahiko NISHIUCHI'

尾崎様、堀内様、西内様

岡本です。国際長寿センター（ILCジャパン）の志藤氏と連絡が取れ、趣旨を話したところ大いに賛同下さり、7月7日は仮に自分が出席できなくても同センターの研究員を出席させたいとのことでした。

なおILC本部のロバート・バトラー博士は1982年の第1回国連高齢化世界会議の議長を務めています。(詳細は以下3頁目をご参照下さい)

http://www.ilc-japan.org/doc/butler_news.pdf

また、高齢化世界会議誘致に向けた実務者会議の準備会合を

7月7日 15:00~17:00 於三菱総研会議室

で開催させて頂ければ有り難く存じます。

現時点で出席の確認済みの方々は、以下の通りです。

尾崎氏（毎日 OB）
 堀内氏（朝日 OB）
 西内氏（共同通信 OB）
 村上氏（三菱総研研究理事）
 志藤氏（国際長寿センター事務局長）あるいは同センター研究員
 岡本（三菱総研 OB）
 また上記以外に下記の方々にも参加を呼び掛ける予定？
 林氏（国立社会保障・人口問題研究所国際関係部長）
 池上氏（前国連人口基金東京事務所長、現日大教授）
 他

以上、宜しくお願い申し上げます。

◎WAA 関連データ集

岡本 憲之 [okamoto@npo-jtta.jp]

2014/06/21 (土) 15:55

尾崎様、堀内様、西内様

岡本です。高齢化に関する世界会議（WAA）の関連データ集をお送りします。
 これまでのデータを改めて整理しましたので参考にして頂ければ幸いです。

WAA 関連データ集

国連の動き

● 高齢化に関するマドリード国際行動計画 2002（第 2 回 WAA、日本語訳）

<http://www8.cao.go.jp/kourei/program/madrid2002/plan2002.html>

● 第 2 回 WAA 政治宣言（2002 年、日本語訳）

<http://www8.cao.go.jp/kourei/program/madrid2002/pd2002.html>

● 第 2 回 WAA のフォローアップ会議、第 66 回国連総会（2012 年 3 月、日本語訳）

http://www.unic.or.jp/files/a_res_66_127.pdf

● 第 2 回 WAA のフォローアップ会議、第 67 回国連総会（2013 年 2 月、英文）

http://www.un.org/en/ga/search/view_doc.asp?symbol=A/RES/67/143

● 第 2 回 WAA のフォローアップ会議に基づく具体的作業を行う場として、
 国連の中に高齢化作業部会が設置された。その第 1 回実質会合での
 日本代表からのステートメントは以下の通り（2011 年 4 月、日本語）。

http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/enzetsu/23/un_0418.html

- 第4回実質会合での春木彰子氏のステートメント（2013年8月、英文）

<http://www.un.emb-japan.go.jp/jp/statements/haruki081213.html>

（参考）

- 国際高齢者年のロゴ「全ての世代のための社会をめざして」（1999年）

http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2000/zu_141.htm

- 第2回 WAA ロゴ（2002年）

<http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2003/zenbun/html/F2211200.html>

日本政府の動き（外務省、厚労省等）

- JICA が高齢化と国際人口移動に関するシンポジウムを開催（2014年5月）

http://jica-ri.jica.go.jp/ja/topic/post_119.html?alert=20140616

- 厚生労働省の ASEAN アクティブエイジングの地域会合の情報。

日本の経験をアジアに伝えるプロジェクトが動き出しそう（2014年6月）

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000047645.html>

その他（海外の動き等）

- 「アクティブエイジングと世代間の連帯のための欧州年」と定めた（2012年）

<http://eumag.jp/feature/b0412/>

- 国連人口基金の報告書（2012年10月、日本語版）

<http://www.unfpa.or.jp/publications/index.php?eid=00034>

（参考）

- アクティブエイジングの考え方については、WHO が 2002 年の第 2 回 WAA に提出したレポートに詳述（2007年10月、日本語版として出版）

http://whqlibdoc.who.int/hq/2002/WHO_NMH_NPH_02.8_jpn.pdf

◎FW: 高齢化に関する世界会議の件←志藤です

岡本 憲之 [okamoto@npo-jtta.jp]

2014/06/24 (火) 16:01

'michio ozaki'; '堀内 正範'; 'Masahiko NISHIUCHI'; '村上 清明'

尾崎様、堀内様、西内様、村上様

岡本です。国際長寿センターの志藤さんからのメールを転送させていただきます。

志藤さんからのメールの中で SDGs の意味は、持続可能な開発目標の略です。

SDGs=2015年に終了するミレニアム開発目標(MDGs)に続く「[ポストMDGs](#)」に関連して、環境の持続可能性確保に重点を置いて検討されている国際目標のこと。

From: ILC-Japan [<mailto:ilcjapan@mba.sphere.ne.jp>]

Sent: Tuesday, June 24, 2014 11:25 AM

To: 岡本 憲之

Subject: Re: 高齢化に関する世界会議の件←志藤です

岡本様

ご丁寧なお知らせをいただき、どうもありがとうございます。

お電話でお話させていただいてから後、いただいたメールにお返事することができず大変に申し訳ございません。

このところ外出が多く、メールのチェックが滞りがちで失礼いたしました。

貴重な情報と資料をいただき、ありがとうございました。

7日のお打合せには当方で、主に対外的なプロジェクトを担当いたしております大上真一がお伺いさせていただきます。

既にメールでのやり取りはなさっていただいておりますかと存じますが、彼は私などとは違い戦略を練って計画を立てることなどを得手としておりますので、まさにふさわしい人材かと思えます。

私どもは小さな組織ですので、情報の共有化をはかるためメールアドレスを共通にしております。

そのため、岡本様からいただきましたメールは全員で拝見いたしますので、私も情報はキャッチアップさせていただきます。

たいへんに大きな取り組みになろうかと思いますが、一方で国連のSDGsの重要課題には高齢者が入っていないということで、大きな問題になっているようです。

岡本さまが挙げておられる春木氏がステートメントを発表した OWG での民間メンバーも、さっそく強い抗議の取組に入るようです

私どもの情報などもお伝えできる場合があらうかと思えます。

2022年に向けて、戦略を練って効果的な取り組みとなりますことを期待いたします。

以上お詫びかたがたご挨拶まで申し上げます。

志藤洋子

©Masahiko NISHIUCHI [mnishi@mtd.biglobe.ne.jp]

2014/06/24 (火) 19:39

尾崎 美千生

堀内 正範 岡本 憲之

高齢者と障害者の自立のための国際福祉機器展のお知らせがありましたので、添付します。
認知症に関する国際シンポがあるとのこと。

西内正彦

◆「高齢者と障害者の自立のための国際福祉機器展 H.C.R.2014」
((一財)保健福祉広報協会)

【会 期】 2014年10月1日(水)～3日(金)

【開場時間】 10:00～17:00

【会 場】 東京ビッグサイト・東展示ホール(東京・江東区有明)

【入 場 料】 無料・登録制(一部のプログラムは有料)

【出 展】 15か国・1地域の580社からの約20,000点の福祉機器を総合展示

Web サイト：<http://www.hcr.or.jp>

H.C.R.2014 事務局：(一財)保健福祉広報協会

〒100-8980 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル

Tel 03-3580-3052 Fax 03-5512-9798

【開催内容】(予定)

◇福祉機器約20,000点を総合展示

◇国際シンポジウム

「EU 諸国の認知症政策の現状と課題～日本の認知症政策と支援活動の充実に向けて（仮題）」

世界的な共通課題となった認知症政策について、欧州各国では、国家戦略の策定や認知症サミットの開催などの取り組みを進めています。こうした動向や現地からの実践レポートなどを踏まえ、これからのわが国の対応のあり方を考察します。

【日 時】2014年10月2日(木) PM

【会 場】東京ビッグサイト 会議棟6階「605 - 608 会議室」

◇H.C.R.セミナー ～幅広いテーマでさまざまな参加者に役立つ情報を提供

高齢者の地域（在宅）での暮らしや介護ニーズに対応した「一般・福祉利用者・家族むけ講座」、福祉施設のサービスの質の向上をめざす「福祉職むけ講座」、はじめて福祉機器を選び、利用するためのセミナーなど、多彩なテーマで開催します。

◇H.C.R.特別企画 ～最新機器、障害児向け製品、高齢・障害者の旅行グッズを集中展示
開発中や新作の機器や介護ロボットの紹介、機器や自助具に関する相談、子ども用製品の展示と療育相談、高齢・障害者の旅行に役立つグッズの展示、被災地の授産施設製品の販売コーナーなどを設けます。

◇出展社主催プレゼンテーション～各社製品の特徴の紹介・PR など
その他、多彩なプログラムを実施。

※プログラムは変更されることがあります。

最新情報と詳細は H.C.R.Web (<http://www.hcr.or.jp>)サイトでご確認ください。

◎michio ozaki [michio1@jcom.home.ne.jp]

2014/06/27 (金) 20:49

'masanori horiuchi'

堀内さん

7月7日の簡単な進行案を作りました。挿入で送ります。点検方願います。尾崎

第一回世界高齢化会議打ち合わせ会

期日：7月7日午後3時～5時

場所：三菱総研会議室（千代田区永田町二丁目10番3号

TEL03-5157-2111)

出席者：池上清子 岡本憲之 尾崎美千生 大上真一 西内正彦 林玲子（予定）堀内正
範 村上清朝

会議進行：尾崎

自己紹介：各自3分

趣旨説明：尾崎（2016年 首都圏 2018年東アジア 2022年世界会議 代表明石康氏に
依頼）

堀内（いまなぜ高齢化か）「人口爆発の21世紀」から

「地球丸ごと高齢化の21世紀」へ

世界トッパーランナー日本→高齢社会のモデルを
世界に示す

「元気な高齢者」の貢献 「平和な日本」の針路
オリンピック後の日本 「二十年問題」

岡本（組織構成）実務者会議→賛同者→代表 財政支援
情報交換：世界の情勢 財政支援 協力団体 その他

◎RE: 「7日進行案」のこと・再送

岡本 憲之 [okamoto@npo-jtta.jp]

2014/06/29 (日) 9:33

'宛先 masanori horiuchi'

c c 'michio ozaki'

堀内様、CC：尾崎様

進行案をお送り下さり有難うございます。
私の考えで修正した案を返送致します。
修正のポイントは以下の通りです。

オリンピック→若者の祭典
高齢化世界会議→高齢者の祭典
と分けない方がよいと思います。
その方が世代間の対立を煽るのを避け、
全国民の参加につながると思います。

「平和憲法保持」を敢えて削除しました。
もちろん私も平和憲法保持には賛成ですが、
これを書くと政治的問題と誤解されやすく、
賛同者を排除してしまう逆効果が働く可能性
があると考えました。

以上、失礼ながら私の修正案を添付致します。

「第3回高齢化世界会議」招致推進の会（準備会合）

期日：7月7日午後3時～5時

場所：三菱総研会議室 千代田区永田町二丁目10番3号

TEL 03-5157-2111

出席者：阿藤誠（予定）、池上清子、大上真一、岡本憲之、尾崎美千生、西内正彦、林玲子
（予定）、堀内正範、村上清明　　－50音順、敬称略－

会議進行：尾崎

自己紹介：各自3分

趣旨説明：尾崎　2016年首都圏　2018年東アジア　2022年世界会議

・賛同者代表 明石康氏に依頼（予定）

堀内　なぜわが国が「第3回高齢化世界会議」の招致に手を挙げ、なぜいま動く必要があるのか。

・「地球丸ごと高齢化の21世紀」への先行国日本の貢献。

・2020年「第32回オリンピック」と同時進行で2022年「第3回高齢化世界会議」への準備をし、「高齢化2025年問題」の対応につなげる。

・大戦後の「平和な日本」の姿を、平和の証である「日本高齢社会」によって世界に示すことに。

西内　前回「2002年マドリード会議」とわが国の対応

岡本　「高齢化世界会議 WAA22」招致提案の素案

・これまでのおおよその経緯（年表）と主催都市・地域（1982年ウイーン→2002年マドリード→）の想定

・組織構成　実務者会議→賛同者→代表　財政支援

情報交換：趣旨への意見　国際的情勢　国内情勢　協力団体・個人　財政支援

・その他

From: masanori horiuchi [<mailto:mhori888@ybb.ne.jp>]

Sent: Sunday, June 29, 2014 5:50 AM

To: 岡本 憲之

Subject: 「7日進行案」のこと・再送

岡本さんへ

堀内より

尾崎さんから7月7日の「進行案」が入りましたので、

急ぎ、拝見・点検いたしました。回します。

岡本さんのお立場で点検なさって、尾崎さんへ送ってください。

「明石さんに聞く」（稿）を当日の参考資料として用意いたします。

「進行案」を添付して再送いたします。

◎説明資料

岡本 憲之 [okamoto@npo-jtta.jp]

2014/06/29 (日) 16:52

'michio ozaki'; 'masanori horiuchi'

尾崎様、堀内様

岡本です。7月7日の会議で配布する説明資料の案を作成してみました。

問題があれば修正しますので、ご指示頂ければ幸いです。

「第3回高齢化世界会議」招致推進の会（仮称）

目的 : 2022年の「第3回高齢化世界会議」を日本（首都圏）に招致することを目指し、その実現に向けた様々な発信、その他の活動を行う。

通称 : WAA22

構成 : 本会は「賛同者」と「実務者会議」の2層構成とする。

賛同者: 「第3回高齢化世界会議」を日本に招致することに賛同する方々を賛同者と呼ぶ。

- ・明石康氏・・・招致に影響力を行使して頂けそうな方々
- ・賛同者を数十名～百名程度集めリストを作成する（公表の承諾を得る）

実務者会議: 招致推進の実務的会議

事務局: 企業や団体等の支援が得られる実務組織（場所と人）

活動 : 実務者会議を中心に活動する。

- ・WAA22 設立趣意書の作成（「提案」と「提案の背景」の叩き台→3頁～4頁）
- ・WAAの経緯や内容、最新動向を紹介する文書の作成（イメージ→5頁～6頁）
- ・上記を含め第3回WAA招致に関する文書の定期的発行（月刊?）
- ・第3回WAAの中心テーマの検討
- ・第3回WAA開催に向けたイベント等の検討（例: 2016年、2018年）
- ・国民世論の喚起

- ・日本国政府（国連日本政府代表部を含む）、国連、政治家等への働きかけ

（注）高齡化に関する世界会議＝World Assembly on Aging（略称：WAA）

メモ

提案 共通の課題－「高齡化に関する世界会議」を首都圏で開催しよう

我が国は世界に先駆けて超高齡社会に突入しているが、高齡化は我が国のみならず世界的な流れであり、特に東アジアや東南アジアの新興国などは急速に高齡化が進んでいる。そして高齡化は、一方では経済発展と医療技術の進歩、さらに平和の証でもあり喜ばしいことだが、他方では医療・介護難民や世代間の対立など様々な問題を引き起こしていることも事実である。それぞれの地域は差し迫った高齡化問題の解決を迫られている。

高齡化に伴って生じる問題とその解決策は地域の特性によって色々であるが、各地域での高齡化問題解決への取組は、他の地域での問題解決に向けた取組のヒントになることは間違いない。それゆえ高齡化に関する会議を開催し、地域間で課題を共有しながら解決策について議論する場を設けることは、高齡化問題の解決に向けた重要な機会を与えることになる。

例えば高齡化と人口減少が同時に進む我が国では、それが経済や財政に与える影響について考え、その解決策を探ることが大きな課題となっている。虚弱高齡者のケアだけではなく、できる限り高齡者の社会経済への参加を促す我が国の取組は、これから高齡化が進む他の国々でも大いに参考になるはずである。そこで、高齡化に関する地域間会議を、日本において三段階で開催することを提案する。

先ず 2016 年、日本の「高齡化に関する大都市圏と地方の問題」を取り上げる。急速に高齡化が進む大都市圏と既に人口減少が始まっている地方の課題を共有し、その解決策を探る－日本エイジングサミットの開催を働きかける。

次に 2018 年、「高齡化に関するアジアの問題」を取り上げる。日本を追いかけるように高齡化が進む東アジアや東南アジアなどの国々から関係者を招き、我が国の経験を伝えるなど活発な議論を展開する－アジアエイジングサミットの開催を呼び掛ける。

最終的に 2022 年、国連「第 3 回高齢化に関する世界会議」の首都圏開催を招致する。オリンピック後の日本の大きな問題として、生産年齢人口の減少がクローズアップされることは必然である。いわゆる 2020 年問題である。その解決に向けた挑戦を通じて、名実ともに高齢化最先進国日本を世界に発信する場として**第 3 回高齢化に関する世界会議**は絶好の機会となる。

提案の背景

高齢化に関する世界会議 (World Assembly on Aging) が最初に開催されたのは 1982 年、オーストリアのウィーンであった。当時の日本の高齢化率は 9% 台で、高齢化問題に関する人々の関心はまだそれほど高くなかった。

それから 20 年後の 2002 年、スペインのマドリードで第 2 回世界会議が開催された。この間、日本では急速に高齢化が進み、高齢化率は 18.5% に達していた。そのため日本政府は、1995 年に高齢社会対策基本法を制定、翌 1996 年には高齢社会対策大綱を策定した。

しかし、その後も高齢化の勢いは止まらず、さらに少子化も加わって、日本は遂に人口減少社会に突入することになった。このままでは、医療や介護、年金といった社会保障制度の維持が困難になるのではないかとの危機感から、我が国は社会の仕組みや制度の抜本的な見直しを迫られている。

実際 2012 年、11 年ぶりに見直された高齢社会対策大綱は、それまでの高齢者の見方を大きく転換するものであった。すなわち高齢者を一方的に支えられる弱者として捉えるのではなく、少なくとも元気な高齢者は社会を支える側に回るべきであるとの考え方が強く打ち出された。

この高齢者に関する認識の転換は、先進国を中心に世界的にも潮流となってきている。例えば、欧州連合 (EU) では、2012 年を「アクティブ・エイジングと世代間の連帯のための欧州年」と定め、高齢化社会への対応を抜本的に見直そうとしている。すなわち、若者が高齢者を支えるという従来の社会通念から脱し、老若共に支え合う社会へのパラダイム転換を目指すとしている。

次の高齢化に関する世界会議が開催される 2022 年には、日本は言うに及ばず世界的にも一層高齢化が進み、高齢化問題は各国共通の課題となつてこよう。そして先進国だけでなく経済発展が進む新興国においても、高齢者を常に支えられるだけの弱者として見るの

ではなく、高齢者も社会を支える一員となるべきとの認識が浸透していくのではないか。その時こそ、高齢化で一步先を行く日本は、すべての世代が支え合うアクティブ・エイジング社会に向けた先駆的取組を通じて、自国の経験を世界に発信することができる。それは単なる国際貢献を超えて、世界共通の課題を解決することから生まれる我が国の新たな発展の機会となる。

**高齢化に関する世界会議（World Assembly on Aging、略称=WAA）等について
（国連の動きと日本の動き）**

年表 (↓)

- 1982年：** 第1回 WAA の開催（於 オーストリア・ウィーン）
 - ・「高齢化に関する国際行動計画」採択（同年開催の第37回国連総会でも決議）
- 1990年：** 毎年10月1日を国際高齢者デーと定めることを決議（第45回国連総会）
- 1991年：** 高齢者のための国連原則を採択（第46回国連総会）
 - ・「高齢化に関する国際行動計画」を18項目に集約、高齢者の自立・参加・ケア・自己実現・尊厳の実現を5原則として掲げる
- 1992年：** 1999年を国際高齢者年とする決議を採択（第47回国連総会）
 - ・1995年には、高齢化が多分野、多世代に関係するなど多様な問題であることを考慮して、「すべての世代のための社会をめざして」をテーマとして採用
- 1995年：** 高齢社会対策基本法制定（日本）
- 1996年：** 高齢社会対策大綱策定（日本）
- 1997年：** 加盟各国にフォーカルポイントの設置を求める（第52回国連総会）
 - ・日本のフォーカルポイント（窓口機関）は総務庁（後の内閣府）
- 1998年：** 国連が活力・多様性・助け合い・運動・発展をイメージしたロゴマークを発表
- 1999年：** 「国際高齢者年のフォローアップのための特別会議」開催（第54回国連総会）
 - ・「高齢化に関する国際行動計画」改定のための第2回 WAA の開催を提案
- 2001年：** 高齢社会対策大綱の見直し（日本）
- 2002年：** 第2回 WAA の開催（スペイン・マドリード）
 - ・「高齢化に関する国際行動計画 2002」（以下、行動計画 2002）の採択を決定
 - ・政治宣言を発表
- 2011年：** 高齢化作業部会の設置と第1回実質会合（日本からは木村国連代表部公使）
- 2012年：** 高齢社会対策大綱の見直し（日本）
- 2012年：** 第2回 WAA のフォローアップ会議
 - ・A/RES/67/143 を決議
- 2013年：** 高齢化作業部会第4回実質会合（日本からは春木彰子書記官）
- 2016年：** 国内？
- 2018年：** アジア？

2022年： 第3回 WAA の開催（日本？）

参考データ集（次頁）国連のデータ

- 高齢化に関するマドリッド国際行動計画 2002（第2回 WAA、日本語訳）

<http://www8.cao.go.jp/kourei/program/madrid2002/plan2002.html>

- 第2回 WAA 政治宣言（2002年、日本語訳）

<http://www8.cao.go.jp/kourei/program/madrid2002/pd2002.html>

- 第2回 WAA のフォローアップ会議、第66回国連総会（2012年3月、日本語訳）

http://www.unic.or.jp/files/a_res_66_127.pdf

- 第2回 WAA のフォローアップ会議、第67回国連総会（2013年2月、英文）

http://www.un.org/en/ga/search/view_doc.asp?symbol=A/RES/67/143

- 国連の中に高齢化作業部会が設置され、その第1回実質会合での日本代表からのステートメントは以下の通り（2011年4月、日本語）。

http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/enzetsu/23/un_0418.html

- 第4回実質会合での春木彰子氏のステートメント（2013年8月、英文）

<http://www.un.emb-japan.go.jp/jp/statements/haruki081213.html>

（参考）

- 国際高齢者年のロゴ「全ての世代のための社会をめざして」（1999年）

http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2000/zu_141.htm

- 第2回 WAA ロゴ（2002年）

<http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2003/zenbun/html/F2211200.html>

日本政府のデータ（外務省、厚労省等）

- JICA が高齢化と国際人口移動に関するシンポジウムを開催（2014年5月）

http://jica-ri.jica.go.jp/ja/topic/post_119.html?alert=20140616

- 厚生労働省の ASEAN アクティブエイジングの地域会合の情報。

日本の経験をアジアに伝えるプロジェクトが動き出しそう（2014年6月）

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000047645.html>

その他（海外のデータ等）

- 「アクティブエイジングと世代間の連帯のための欧州年」と定めた（2012年）

<http://eumag.jp/feature/b0412/>

- 国連人口基金の報告書（2012年10月、日本語版）

<http://www.unfpa.or.jp/publications/index.php?eid=00034>

(参考)

- アクティブエイジングの考え方については、WHO が 2002 年の第 2 回 WAA に提出したレポートに詳述 (2007 年 10 月、日本語版として出版)

http://whqlibdoc.who.int/hq/2002/WHO_NMH_NPH_02.8_jpn.pdf

◎高齢化世界会議の件

岡本 憲之 [okamoto@npo-jtta.jp]

2014/06/30 (月) 10:43

宛先'michio ozaki'; 'masanori horiuchi'; 'Masahiko NISHIUCHI'

尾崎様、堀内様、西内様

岡本です。7月7日の出席者の方々には下記のご案内をさせていただきますので宜しくお願い申し上げます。

<会議名：仮称>

「第3回高齢化世界会議」招致推進の会（準備会合）

<日時と場所>

7月7日 15:00~17:00 於三菱総研会議室

<ご出席者：50音順、敬称略>

阿藤誠（厚生労働統計協会会長、元国立社会保障・人口問題研究所長）→予定

池上清子（日本大学教授、元国連人口基金東京事務所長）

大上真一（国際長寿センター）

岡本憲之（NPO 法人日本シンクタンクアカデミー、元三菱総研）

尾崎美千生（人口問題協議会、元毎日新聞）

西内正彦（NPO 法人 2050、元共同通信）

林玲子（国立社会保障・人口問題研究所国際関係部長）→予定

堀内正範（丈風の会、元朝日新聞）

村上清明（三菱総研研究理事）

なお、三菱総研の場所は、下記のサイト（URL）をご覧ください。

地下1階の受付で村上研究理事と仰って頂ければご案内致します。

http://www.mri.co.jp/company/info/office/headoffice_map.html

◎高齢化世界会議の件

岡本 憲之 [okamoto@npo-jtta.jp]

2014/07/07 (月) 22:46

宛先 'michio ozaki'; 'masanori horiuchi'; 'Masahiko NISHIUCHI'; 'ilcJapan';
hayashi-reiko@ipss.go.jp; 'Kiyoko IKEGAMI'
c c 村上清明

皆様

日本シンクタンクアカデミーの岡本です。本日はご多忙の中、高齢化世界会議招致推進の会にご参加下さり有難うございました。お陰様で大変有意義なご意見を賜ったかと思っております。

さて次回の会合ですが、三菱総研村上研究理事から会議室の空いている日のご連絡を頂きました。それによると8月18日～29日では、8月18日(月)のみだそうです(今日と同じ部屋で15:00～17:00を仮押さえ下さったそうです)。もし不都合であれば9月で再調整して頂けるとのことですので、ご検討の上ご都合をご連絡して頂ければ幸いです。

なお、本日申し上げました、取り敢えず皆様に定期的にお送りするメルマガの件ですが、そのイメージは以下のような感じです。もしご意見等がございましたらお寄せ頂ければ有り難く存じます。また、西内様よりご指摘のありました、2002年のマドリード会議出席者の対談ですが、ファイルを添付致します。

以上、宜しくお願い申し上げます。

メルマガのイメージは以下のような感じです(月刊の場合)

メルマガ(今月の動き: ○年○月○日～○年○月○日)

I 国内外の新たな動き (WAAに関連する新たな動き)

.....

II 賛同者の新たな言動 (WAAに関連する言動)

.....

III 幹事会の新たな活動 (WAA招致に関連する活動)

.....

WAA 関連データ集 (カテゴリー別→時系列に追加累積する形で更新)

国連の動き

- 第4回実質会合での春木彰子氏のステートメント（2013年8月、英文）
<http://www.un.emb-japan.go.jp/jp/statements/haruki081213.html>
 - 第2回WAAのフォローアップ会議、第67回国連総会（2013年2月、英文）
http://www.un.org/en/ga/search/view_doc.asp?symbol=A/RES/67/143
 - 第2回WAAのフォローアップ会議、第66回国連総会（2012年3月、日本語訳）
http://www.unic.or.jp/files/a_res_66_127.pdf
 - 第2回WAAのフォローアップ会議に関する具体的作業を行う場として、国連の中に高齢化作業部会が設置された。その第1回実質会合での日本代表からのステートメントは以下の通り（2011年4月、日本語）。
http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/enzetsu/23/un_0418.html
 - 第2回WAA政治宣言（2002年、日本語訳）
<http://www8.cao.go.jp/kourei/program/madrid2002/pd2002.html>
 - 高齢化に関するマドリード国際行動計画2002（第2回WAA、日本語訳）
<http://www8.cao.go.jp/kourei/program/madrid2002/plan2002.html>
- （参考）
- 第2回WAAロゴ（2002年）
<http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2003/zenbun/html/F2211200.html>
 - 国際高齢者年のロゴ「全ての世代のための社会をめざして」（1999年）
http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2000/zu_141.htm

日本政府の動き（外務省、厚労省等）

- 厚生労働省のASEAN アクティブエイジングの地域会合の情報。
日本の経験をアジアに伝えるプロジェクトが動き出しそう（2014年6月）
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000047645.html>
- JICAが高齢化と国際人口移動に関するシンポジウムを開催（2014年5月）
http://jica-ri.jica.go.jp/ja/topic/post_119.html?alert=20140616
- 「ASEAN・日本社会保障ハイレベル会合」の概要（2013年12月）
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kokusaigyomu/asean/2013/kekka.html>

その他（海外の動き等）

- 国連人口基金の報告書（2012年10月、日本語版）
<http://www.unfpa.or.jp/publications/index.php?eid=00034>
- 「アクティブエイジングと世代間の連帯のための欧州年」と定めた（2012年）
<http://eumag.jp/feature/b0412/>

（参考）

- アクティブエイジングの考え方については、WHO が 2002 年の第 2 回 WAA に提出したレポートに詳述（2007 年 10 月、日本語版として出版）

http://whqlibdoc.who.int/hq/2002/WHO_NMH_NPH_02.8_jpn.pdf

2002 年マドリード会議出席者対談



WWA 1.pdf



WWA 2.pdf



WWA 3.pdf



WWA 4.pdf



WWA 5.pdf



WWA 6.pdf



WWA 7.pdf



WWA 8.pdf

◎高齢化世界会議の件

岡本 憲之 [okamoto@npo-jtta.jp]

2014/07/09 (水) 9:00

宛先'michio ozaki'; 'masanori horiuchi'; 'Masahiko NISHIUCHI'; 'Kiyoko IKEGAMI';

hayashi-reiko@ipss.go.jp; 'ilcJapan'; 村上清明

c c 岡本憲之

幹事会の皆様

岡本です。度々お騒がせして申し訳ありませんが、(月刊メルマガ)のフォーマットが確定するまでの間、幹事会の皆様から高齢化世界会議に関する情報をお寄せ頂いた場合、その都度幹事会の皆様全員に配信させて頂きたく存じますので、ご了承賜りたく宜しくお願ひ申し上げます。

今回は西内様よりお寄せ頂いた情報を中心に配信させて頂きます。

仮のメルマガ(当面、情報をお寄せ頂いた都度、配信致します)

仮のメルマガ(2014年7月9日)

I 国内外の新たな動き(WAAに関連する新たな動き)

・昨年1月に、「Global Commission on Ageing in Developing Countries」が北京で立ち上がっています。中国もWAAの招致を考えているのでしょうか？

<http://www.partners-popdev.org/ageing/>

II 賛同者の新たな言動(WAAに関連する言動)

・堀田力先生が平成26年7月吉日、さわやか福祉財団の理事長を退かれ、会長に就任されました。今後は新地域支援事業に力を尽くすとのこと。WAAの招致にも力を尽くして頂けると有り難いのですが・・・(仮に堀田先生が賛同者になって下さった場合の記事例です)

III 幹事会の皆様の新たな言動(WAA招致に関連する言動)

・国連のアジア太平洋経済社会委員会(ESCAP)は、独自にこの地域の高齢化に対応する会議やマドリード行動計画の評価のための会議を開いています。もし2018年に日本でアジアエイジングサミットを開催することを考えるのであれば「アジア太平洋地域(ESCAP)エイジグサミット」にしては如何でしょうか。国連が主催した3つの人口会議の前年には、ESCAP人口会議が開かれています。昨年も10年ぶりにバンコクでESCAP人口会議がありました。10年前には尾崎さんらと取材に行ったのですが、昨年は残念ながらパスでした(西内正彦)

追記

- ・ WAA 関連データ集の「その他（参考）」に、NGO 関連データを加えました。
- ・ 次回の幹事会は 8 月 18 日（月）の 15：00～17：00（於三菱総研）で決まりそうです。

以上

WAA 関連データ集（カテゴリー別→時系列に追加累積する形で更新）

国連の動き

- 第 4 回実質会合での春木彰子氏のステートメント（2013 年 8 月、英文）
<http://www.un.emb-japan.go.jp/jp/statements/haruki081213.html>
- 第 2 回 WAA のフォローアップ会議、第 67 回国連総会（2013 年 2 月、英文）
http://www.un.org/en/ga/search/view_doc.asp?symbol=A/RES/67/143
- 第 2 回 WAA のフォローアップ会議、第 66 回国連総会（2012 年 3 月、日本語訳）
http://www.unic.or.jp/files/a_res_66_127.pdf
- 第 2 回 WAA のフォローアップ会議に関する具体的作業を行う場として、国連の中に高齢化作業部会が設置された。その第 1 回実質会合での日本代表からのステートメントは以下の通り（2011 年 4 月、日本語）。
http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/enzetsu/23/un_0418.html
- 第 2 回 WAA 政治宣言（2002 年、日本語訳）
<http://www8.cao.go.jp/kourei/program/madrid2002/pd2002.html>
- 高齢化に関するマドリッド国際行動計画 2002（第 2 回 WAA、日本語訳）
<http://www8.cao.go.jp/kourei/program/madrid2002/plan2002.html>

（参考）

- 第 2 回 WAA ロゴ（2002 年）
<http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2003/zenbun/html/F2211200.html>
- 国際高齢者年のロゴ「全ての世代のための社会をめざして」（1999 年）
http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2000/zu_141.htm

日本政府の動き（外務省、厚労省等）

- 厚生労働省の ASEAN アクティブエイジングの地域会合の情報。
日本の経験をアジアに伝えるプロジェクトが動き出しそう（2014 年 6 月）
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000047645.html>

- JICA が高齢化と国際人口移動に関するシンポジウムを開催（2014年5月）

http://jica-ri.jica.go.jp/ja/topic/post_119.html?alert=20140616

- 「ASEAN・日本社会保障ハイレベル会合」の概要（2013年12月）

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kokusaigyomu/asean/2013/kekka.html>

その他（海外の動き等）

- 国連人口基金の報告書（2012年10月、日本語版）

<http://www.unfpa.or.jp/publications/index.php?eid=00034>

- 「アクティブエイジングと世代間の連帯のための欧州年」と定めた（2012年）

<http://eumag.jp/feature/b0412/>

（参考）

- アクティブエイジングの考え方については、WHOが2002年の第2回WAAに提出したレポートに詳述（2007年10月、日本語版として出版）

http://whqlibdoc.who.int/hq/2002/WHO_NMH_NPH_02.8_jpn.pdf

- 国連に関連するNGOのリスト、および高齢化に関するNGO Help Age International（国連人口基金が2年前に出した「Agein in the Twenty-First Century」の共同執筆団体の1つでもあります）

<http://undesadspd.org/Ageing/InternationalDayofOlderPersons/1998/UNNGOCommitteeonAgeing.aspx>

<http://www.helpage.org/>

◎Re: 高齢化世界会議の件

ilcjapan [ilcjapan@mba.sphere.ne.jp]

2014/07/10 (木) 17:05

宛先岡本憲之; 'michio ozaki'; 'masanori horiuchi'; 'Masahiko NISHIUCHI'; 'Kiyoko IKEGAMI'; hayashi-reiko@ipss.go.jp; 村上清明

c c ilcjapan@mba.sphere.ne.jp

皆様

先日は途中で逃げ帰って失礼いたしました。

少しだけ、添付ファイルのように世界の高齢関係の参考URLを集めてみました。

これらの中をご覧になるといろいろニュースがあります。

とりあえず、責めをふさぐことにもならない程度ですが…。

(国際長寿センター 大上真一)

(UN)

The review and appraisal of the Madrid Plan of Action

The review and appraisal of the Madrid Plan of Action takes place every five years.

<http://undesadspd.org/Ageing/MadridPlanofActionanditsImplementation/ReviewandAppraisaloftheMIPAA.aspx>

The Division for Social Policy and Development (DSPD)

Ageing

DSPD Ageing is the focal point within the United Nations system on matters related to ageing.

<http://undesadspd.org/ageing.aspx>

国連機構図

<http://www.unic.or.jp/files/organize.pdf>

UN System Organizational Chart

http://www.un.org/en/aboutun/structure/org_chart.shtml

(EU)

AGEING - European Commission

Ageing is one of the greatest social and economic challenges of the 21st century for European societies. It will affect all EU countries and most policy areas.

http://ec.europa.eu/health/ageing/policy/index_en.htm

(USA)

Administration on Aging (AoA)

The Administration on Aging is the Federal focal point and advocate agency for older persons and their concerns.

<http://www.usa.gov/directory/federal/administration-on-aging.shtml>

(UN based NGOs)

Global Action on Aging

Global Action on Aging is a 501(c)3 non-profit based in New York with consultative status at the United Nations. GAA reports on older people's needs and potential within the global economy.

<http://globalaging.blogspot.jp/>

United Nations Non-Governmental Liaison Service (NGLS)

NGLS closely monitors and reports on ongoing deliberations at the UN on its broad economic and social development, human rights, environment, peace and security agenda.

<http://www.un-ngls.org/>

(International organizations)

International Association of Gerontology and Geriatrics

The mission of the IAGG is to promote the highest levels of achievement in gerontological research and training worldwide, and to interact with other international, inter-governmental and non-governmental organizations in the promotion of gerontological interests globally and on behalf of its member associations.

<http://www.iagg.info/>

International Federation for Ageing

We are an international non-governmental organization with a membership base of NGOs, the corporate sector, academia, government, and individuals.

<http://www.ifa-fiv.org/>

International Longevity Centre Global Alliance (ILC Global Alliance)

The mission of the ILC Global Alliance is to help societies to address longevity and population ageing in positive and productive ways, typically using a life course approach, highlighting older people's productivity and contributions to family and society as a whole.

<http://www.ilc-alliance.org/>

From: [岡本 憲之](#)

Sent: Wednesday, July 09, 2014 8:59 AM

To: '[michio ozaki](#)'; '[masanori horiuchi](#)'; '[Masahiko NISHIUCHI](#)'; '[Kiyoko IKEGAMI](#)'; hayashi-reiko@ipss.go.jp; '[ilcjapan](#)'; [村上清明](#)

Cc: [岡本憲之](#)

Subject: 高齢化世界会議の件

幹事会の皆様

岡本です。度々お騒がせして申し訳ありませんが、(月刊メルマガ)のフォーマットが確定するまでの間、幹事会の皆様から高齢化世界会議に関する情報をお寄せ頂いた場合、その都度幹事会の皆様全員に配信させて頂きたく存じますので、ご了承賜りたく宜しくお願ひ申し上げます。

今回は西内様よりお寄せ頂いた情報を中心に配信させて頂きます。

仮のメルマガ(当面、情報をお寄せ頂いた都度、配信致します)

仮のメルマガ(2014年7月9日)

I 国内外の新たな動き(WAAに関連する新たな動き)

・昨年1月に、「Global Commission on Agein in Developing Countries」が北京で立ち上がっています。中国もWAAの招致を考えているのでしょうか？

<http://www.partners-popdev.org/ageing/>

II 賛同者の新たな言動(WAAに関連する言動)

・堀田力先生が平成26年7月吉日、さわやか福祉財団の理事長を退かれ、会長に就任されました。今後は新地域支援事業に力を尽くすとのこと。WAAの招致にも力を尽くして頂けると有り難いのですが・・・(仮に堀田先生が賛同者になって下さった場合の記事例です)

III 幹事会の皆様の新たな言動(WAA招致に関連する言動)

・国連のアジア太平洋経済社会委員会(ESCAP)は、独自にこの地域の高齢化に対応する会議やマドリード行動計画の評価のための会議を開いています。

もし2018年に日本でアジアエイジングサミットを開催することを考えるのであれば「アジア太平洋地域(ESCAP)エイジグサミット」にしては如何でしょうか。国連が主催した3つの人口会議の前年には、ESCAP人口会議が開かれています。昨年も10年ぶりにバンコクでESCAP人口会議がありました。10年前には尾崎さ

んらと取材に行ったのですが、昨年は残念ながらパスでした（西内正彦）

追記

- ・ WAA 関連データ集の「その他（参考）」に、NGO 関連データを加えました。
- ・ 次回の幹事会は 8 月 18 日（月）の 15：00～17：00（於三菱総研）で決まりそうです。

以上

WAA 関連データ集（カテゴリー別→時系列に追加累積する形で更新）

国連の動き

- 第 4 回実質会合での春木彰子氏のステートメント（2013 年 8 月、英文）
<http://www.un.emb-japan.go.jp/jp/statements/haruki081213.html>
 - 第 2 回 WAA のフォローアップ会議、第 67 回国連総会（2013 年 2 月、英文）
http://www.un.org/en/ga/search/view_doc.asp?symbol=A/RES/67/143
 - 第 2 回 WAA のフォローアップ会議、第 66 回国連総会（2012 年 3 月、日本語訳）
http://www.unic.or.jp/files/a_res_66_127.pdf
 - 第 2 回 WAA のフォローアップ会議に関する具体的作業を行う場として、国連の中に高齢化作業部会が設置された。その第 1 回実質会合での日本代表からのステートメントは以下の通り（2011 年 4 月、日本語）。
http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/enzetsu/23/un_0418.html
 - 第 2 回 WAA 政治宣言（2002 年、日本語訳）
<http://www8.cao.go.jp/kourei/program/madrid2002/pd2002.html>
 - 高齢化に関するマドリッド国際行動計画 2002（第 2 回 WAA、日本語訳）
<http://www8.cao.go.jp/kourei/program/madrid2002/plan2002.html>
- （参考）
- 第 2 回 WAA ロゴ（2002 年）
<http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2003/zenbun/html/F2211200.html>
 - 国際高齢者年のロゴ「全ての世代のための社会をめざして」（1999 年）
http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2000/zu_141.htm

日本政府の動き（外務省、厚労省等）

- 厚生労働省の ASEAN アクティブエイジングの地域会合の情報。
日本の経験をアジアに伝えるプロジェクトが動き出しそう（2014 年 6 月）

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000047645.html>

- JICA が高齢化と国際人口移動に関するシンポジウムを開催（2014年5月）

http://jica-ri.jica.go.jp/ja/topic/post_119.html?alert=20140616

- 「ASEAN・日本社会保障ハイレベル会合」の概要（2013年12月）

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kokusaigyomu/asean/2013/kekka.html>

その他（海外の動き等）

- 国連人口基金の報告書（2012年10月、日本語版）

<http://www.unfpa.or.jp/publications/index.php?eid=00034>

- 「アクティブエイジングと世代間の連帯のための欧州年」と定めた（2012年）

<http://eumag.jp/feature/b0412/>

（参考）

- アクティブエイジングの考え方については、WHO が 2002 年の第 2 回 WAA に提出したレポートに詳述（2007年10月、日本語版として出版）

http://whqlibdoc.who.int/hq/2002/WHO_NMH_NPH_02.8_jpn.pdf

- 国連に関連する NGO のリスト、および高齢化に関する NGO Help Age International（国連人口基金が 2 年前に出した「Agein in the Twenty-First Century」の共同執筆団体の 1 つでもあります）

<http://undesadspd.org/Ageing/InternationalDayofOlderPersons/1998/UNNGOCommitteeonAgeing.aspx>

<http://www.helpage.org/>

◎RE: 「WAA 22メルマガ案」です

岡本 憲之 [okamoto@npo-jtta.jp]

2014/07/11 (金) 12:53

'masanori horiuchi'

堀内様

岡本です。メルマガ（案）有難うございます。

細かい点で恐縮ですが、気がついた点を若干・・・

- ① 推進の会の 2 層、すなわち賛同者ともう 1 つの名称を実務者会議とするか幹事会とするか決めましょう。
- ② データ集の配列ですが、古い順にするか、新しい順にするかどちらが見やすいでしょうか？最新のデータから順に古くな

っていく方が見やすいとの意見もあるようで・・・・・・？

From: masanori horiuchi [<mailto:mhori888@ybb.ne.jp>]

Sent: Thursday, July 10, 2014 11:53 AM

To: 岡本 憲之

Subject: 「WAA 2 2 メルマガ案」です

岡本さんへ

堀内より

「WAA 2 2 メルマガ案」です。

「doc版」を使って、7月7日以降の西内情報を
新データあるいは新情報として挿入してみてください。

途中ですが町の会にでますので。

◎WAA データ集

岡本 憲之 [okamoto@npo-jtta.jp]

2014/07/11 (金) 18:21

'masanori horiuchi'

堀内様

WAA 関連データ集の最新版をお送りします。

新たなデータを追加したのと、年代の新しい順に
並べ直した点が異なります。

WAA 関連データ集（カテゴリー別→時系列に追加累積する形で更新）

国連の動き

- 第2回 WAA のフォローアップ会議、第 68 回国連総会（2014 年 1 月、英文）
http://www.un.org/en/ga/search/view_doc.asp?symbol=A/RES/68/134
- 第 4 回実質会合での春木彰子氏のステートメント（2013 年 8 月、英文）

<http://www.un.emb-japan.go.jp/jp/statements/haruki081213.html>

- 第2回 WAA のフォローアップ会議、第 67 回国連総会（2013 年 2 月、英文）

http://www.un.org/en/ga/search/view_doc.asp?symbol=A/RES/67/143

- 第2回 WAA のフォローアップ会議、第 66 回国連総会（2012 年 3 月、日本語訳）

http://www.unic.or.jp/files/a_res_66_127.pdf

- 第2回 WAA のフォローアップ会議に関する具体的作業を行う場として、国連の中に高齢化作業部会が設置された。その第1回実質会合での日本代表からのステートメントは以下の通り（2011 年 4 月、日本語）。

http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/enzetsu/23/un_0418.html

- 第2回 WAA 政治宣言（2002 年、日本語訳）

<http://www8.cao.go.jp/kourei/program/madrid2002/pd2002.html>

- 高齢化に関するマドリード国際行動計画 2002（第2回 WAA、日本語訳）

<http://www8.cao.go.jp/kourei/program/madrid2002/plan2002.html>

（参考）

- 第2回 WAA ロゴ（2002 年）

<http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2003/zenbun/html/F2211200.html>

- 国際高齢者年のロゴ「全ての世代のための社会をめざして」（1999 年）

http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2000/zu_141.htm

日本政府の動き（外務省、厚生省等）

- 厚生労働省の ASEAN アクティブエイジングの地域会合の情報。

日本の経験をアジアに伝えるプロジェクトが動き出しそう（2014 年 6 月）

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000047645.html>

- JICA が高齢化と国際人口移動に関するシンポジウムを開催（2014 年 5 月）

http://jica-ri.jica.go.jp/ja/topic/post_119.html?alert=20140616

- 「ASEAN・日本社会保障ハイレベル会合」の概要（2013 年 12 月）

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kokusaigyomu/asean/2013/kekka.html>

その他（海外の動き等）

- 「Global Commission on Agein in Developing Countries」が北京で立ち上がっています。中国も WAA 招致に積極的か？（2013 年 1 月）

<http://www.partners-popdev.org/ageing/>

- 国連人口基金の報告書（2012 年 10 月、日本語版）

<http://www.unfpa.or.jp/publications/index.php?eid=00034>

- 「アクティブエイジングと世代間の連帯のための欧州年」と定めた（2012 年）

<http://eumag.jp/feature/b0412/>

(参考)

- アクティブエイジングの考え方については、WHO が 2002 年の第 2 回 WAA に提出したレポートに詳述（2007 年 10 月、日本語版として出版）

http://whqlibdoc.who.int/hq/2002/WHO_NMH_NPH_02.8_jpn.pdf

- 国連に関連する NGO のリスト、および高齢化に関する NGO Help Age International（国連人口基金が 2 年前に出した「Agein in the Twenty-First Cencury」の共同執筆団体の 1 つでもあります）

<http://undesadspd.org/Ageing/InternationalDayofOlderPersons/1998/UNNGOCommitteonAgeing.aspx>

<http://www.helpage.org/>

◎Re: 高齢化世界会議の件

reikohayashi2007@gmail.com が次の人の代理で送信しました:

Reiko Hayashi [hayashi-reiko@ipss.go.jp]

2014/07/13 (日) 10:52

宛先岡本 憲之

c c michio ozaki; masanori horiuchi; Masahiko NISHIUCHI; ilejapan; Kiyoko IKEGAMI; 村上清明

岡本様、みなさま

資料の送付などありがとうございました。

18 日ですが、まだ時間が確定してないのですが、会議が入る予定になっています。また近くなったら出欠を連絡いたします。

さて、国連の担当者（経済社会局社会政策・開発課高齢化担当）に 2022 年の世界高齢者会議の開催予定について問い合わせましたところ、現在のところ、

- 国連が会議を行うよう委託されているわけでも計画があるわけでもない。
- 2002 年は 1982 年から 20 年経って人口変化があったので新たな行動計画を立てる必要があったため開催した。
- 2022 年に国連として会議を開催するには、国連加盟国が提案をし、他の加盟国を説得し、予算のめどを立てることが必要。
- 現在のところ、そのような動きは全くない。

ということでした。ハードルは高いと思われます。

ESCAP の方も現在担当者に問い合わせ中で、返事を待っているところです。場合によれば、こちらの方が開催も近いし、ベターかもしれませんね。

林玲子

国立社会保障・人口問題研究所 国際関係部長

〒100-0011 千代田区内幸町 2-2-3 日比谷国際ビル 6F

Tel : 03-3595-2984 内線 4420 Fax : 03-3591-4821 hayashi-reiko@ipss.go.jp

Reiko Hayashi, Ph.D.

Director

Department of International Research and Cooperation National Institute of
Population and Social Security Research (IPSS) Hibiya Kokusai Building 6th Floor
2-2-3 Uchisaiwaicyo, Chiyoda-ku, Tokyo 100-0011

Tel: +81-(0)3-3595-2984 ext.4420 fax : +81-(0)3-3591-4821

2014年7月7日 22:45 岡本 憲之 <okamoto@npo-jtta.jp>:

> 皆様

>

> 日本シンクタンクアカデミーの岡本です。本日はご多忙の中、高齢化世界会議招致推進の会にご参加下さり有難うございました。お陰様で大変有意義なご意見を賜ったかと思っております。

> さて次回の会合ですが、三菱総研村上研究理事から会議室の空いている日のご連絡を頂きました。それによると8月18日～29日では、8月18日（月）のみだそうです（今日と同じ部屋で15:00～17:00を仮押さえ下さったそうです）。もし不都合であれば9月で再調整して頂けるとのことですので、ご検討の上ご都合をご連絡して頂ければ幸いです。

>

> なお、本日申し上げました、取り敢えず皆様に定期的にお送りするメルマガの件ですが、そのイメージは以下のような感じです。もしご意見等がございましたらお寄せ頂ければ有り難く存じます。また、西内様よりご指摘のありました、2002年のマドリード会議出席者の対談ですが、ファイルを添付致します。

以上、宜しくお願い申し上げます。

- > _____
- > メルマガのイメージは以下のような感じです（月刊の場合）
- > _____
- > メルマガ（今月の動き：○年○月○日～○年○月○日）
- >
- > I 国内外の新たな動き（WAAに関連する新たな動き）
- >
- > II 賛同者の新たな言動（WAAに関連する言動）
- >
- > III 幹事会の新たな活動（WAA 招致に関連する活動）
- >
- > _____
- > WAA 関連データ集（カテゴリー別→時系列に追加累積する形で更新）
- >
- > 国連の動き
- >
- > ●第 4 回実質会合での春木彰子氏のステートメント（2013 年 8 月、英文）
- > <http://www.un.emb-japan.go.jp/jp/statements/haruki081213.html>
- >
- > ●第 2 回 WAA のフォローアップ会議、第 67 回国連総会（2013 年 2 月、英文）
- > http://www.un.org/en/ga/search/view_doc.asp?symbol=A/RES/67/143
- >
- > ●第 2 回 WAA のフォローアップ会議、第 66 回国連総会（2012 年 3 月、日本語訳）
- > http://www.unic.or.jp/files/a_res_66_127.pdf
- >
- > ●第 2 回 WAA のフォローアップ会議に関する具体的作業を行う場として、国連の中に高齢化作業部会が設置された。その第 1 回実質会合での日本代表からのステートメントは以下の通り（2011 年 4 月、日本語）。
- > http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/enzetsu/23/un_0418.html
- >
- > ●第 2 回 WAA 政治宣言（2002 年、日本語訳）
- > <http://www8.cao.go.jp/kourei/program/madrid2002/pd2002.html>
- >
- > ●高齢化に関するマドリッド国際行動計画 2002（第 2 回 WAA、日本語訳）
- > <http://www8.cao.go.jp/kourei/program/madrid2002/plan2002.html>
- >

- > (参考)
- > ●第2回 WAA ロゴ (2002年)
- > <http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2003/zenbun/html/F2211200.html>
- >
- > ●国際高齢者年のロゴ「全ての世代のための社会をめざして」(1999年)
- > http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2000/zu_141.htm
- >
- > 日本政府の動き(外務省、厚労省等)
- >
- > ●厚生労働省のASEAN アクティブエイジングの地域会合の情報。
- >
- > 日本の経験をアジアに伝えるプロジェクトが動き出しそう(2014年6月)
- > <http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000047645.html>
- >
- > ●JICAが高齢化と国際人口移動に関するシンポジウムを開催(2014年5月)
- > http://jica-ri.jica.go.jp/ja/topic/post_119.html?alert=20140616
- >
- > ●「ASEAN・日本社会保障ハイレベル会合」の概要(2013年12月)
- > <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kokusaigyomu/asean/2013/kekka.html>
- >
- > その他(海外の動き等)
- >
- > ●国連人口基金の報告書(2012年10月、日本語版)
- > <http://www.unfpa.or.jp/publications/index.php?eid=00034>
- >
- > ●「アクティブエイジングと世代間の連帯のための欧州年」と定めた(2012年)
- > <http://eumag.jp/feature/b0412/>
- >
- > (参考)
- > ●アクティブエイジングの考え方については、WHOが2002年の第2回WAAに提出したレポートに詳述(2007年10月、日本語版として出版)
- > http://whqlibdoc.who.int/hq/2002/WHO_NMH_NPH_02.8_jpn.pdf

©RE: 高齢化世界会議の件

岡本 憲之 [okamoto@npo-jtta.jp]

2014/07/13 (日) 13:13

宛先'Reiko Hayashi'

c c 'michio ozaki'; 'masanori horiuchi'; 'Masahiko NISHIUCHI'; 'ilcJapan'; 'Kiyoko IKEGAMI'; '村上清明'

林先生、CC：皆様

岡本です。貴重な情報をご提供下さり有難うございます。
私自身は国連不案内故「盲蛇に怖じず」で、ご迷惑お手数をお掛けしているかもしれませんが、お詫び致します。

林先生のご指摘を受け個人的な意見ですが、将来の国連
高齢化世界会議開催の可能性を見据えつつも取り敢えず、

- ・ 高齢化と人口減少の同時進行が始まっている国内問題
- ・ 同じように日本を追いかけているアジア新興国の問題

への取組みに力を入れるなど、戦略の見直しを迫られる
かもしれないと思いました。またご指摘の通り ESCAP に
注目する必要がありそうにも思いました。

当面（仮）の事務局として今後さらに皆様のご意見を伺
って参りたく思っておりますので、先生方には引き続き
ご指導賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

-----Original Message-----

From: reikohayashi2007@gmail.com [<mailto:reikohayashi2007@gmail.com>] On Behalf
Of Reiko Hayashi

Sent: Sunday, July 13, 2014 10:52 AM

To: 岡本 憲之

Cc: michio ozaki; masanori horiuchi; Masahiko NISHIUCHI; ilcJapan; Kiyoko
IKEGAMI; 村上清明

Subject: Re: 高齢化世界会議の件

岡本様、みなさま

資料の送付などありがとうございました。

18日ですが、まだ時間が確定してないのですが、会議が入る予定になっています。また近くなったら出欠を連絡いたします。

さて、国連の担当者（経済社会局社会政策・開発課高齢化担当）に2022年の世界高齢者会議の開催予定について問い合わせましたところ、現在のところ、

- 国連が会議を行うよう委託されているわけでも計画があるわけでもない。
- 2002年は1982年から20年経って人口変化があったので新たな行動計画を立てる必要があったため開催した。
- 2022年に国連として会議を開催するには、国連加盟国が提案をし、他の加盟国を説得し、予算のめどを立てることが必要。
- 現在のところ、そのような動きは全くない。

ということでした。ハードルは高いと思われます。

ESCAPの方も現在担当者に問い合わせ中で、返事を待っているところです。場合によれば、こちらの方が開催も近いし、ベターかもしれませんね。

林玲子

国立社会保障・人口問題研究所 国際関係部長

〒100-0011 千代田区内幸町 2-2-3 日比谷国際ビル 6F

Tel: 03-3595-2984 内線 4420 Fax: 03-3591-4821 hayashi-reiko@ipss.go.jp

Reiko Hayashi, Ph.D.

Director

Department of International Research and Cooperation National Institute of
Population and Social Security Research (IPSS) Hibiya Kokusai Building 6th Floor
2-2-3 Uchisaiwaicyo, Chiyoda-ku, Tokyo 100-0011

Tel: +81-(0)3-3595-2984 ext.4420 fax: +81-(0)3-3591-4821

2014年7月7日 22:45 岡本 憲之 <okamoto@npo-jtta.jp>:

> 皆様

>

> 日本シンクタンクアカデミーの岡本です。本日はご多忙の中、高齢化世界会議招致推進の会にご参加下さり有難うございました。お陰様で大変有意義なご意見を賜ったかと思っております。

> さて次回の会合ですが、三菱総研村上研究理事から会議室の空いている日のご連絡を頂きました。それによると8月18日～29日では、8月18日（月）のみだそうです（今日と同じ部屋で15：00～17：00を仮押さえ下さったそうです）。もし不都合であれば9月で再調整して頂けるとのことですので、ご検討の上ご都合をご連絡して頂ければ幸いです。

> なお、本日申し上げました、取り敢えず皆様に定期的にお送りするメルマガの件ですが、そのイメージは以下のような感じです。もしご意見等がございましたらお寄せ頂ければ有り難く存じます。また、西内様よりご指摘のありました、2002年のマドリード会議出席者の対談ですが、ファイルを添付致します。

> 以上、宜しくお願い申し上げます。

> _____

> メルマガのイメージは以下のような感じです（月刊の場合）

> _____

> メルマガ（今月の動き：○年○月○日～○年○月○日）

> I 国内外の新たな動き（WAAに関連する新たな動き）

>

> II 賛同者の新たな言動（WAAに関連する言動）

>

> III 幹事会の新たな活動（WAA招致に関連する活動）

>

> _____

> WAA 関連データ集（カテゴリー別→時系列に追加累積する形で更新）

>

> 国連の動き

>

> ●第4回実質会合での春木彰子氏のステートメント（2013年8月、英文）

> <http://www.un.emb-japan.go.jp/jp/statements/haruki081213.html>

>

> ●第2回WAAのフォローアップ会議、第67回国連総会（2013年2月、英文）

> http://www.un.org/en/ga/search/view_doc.asp?symbol=A/RES/67/143

>

> ●第2回WAAのフォローアップ会議、第66回国連総会（2012年3月、日本語訳）

> http://www.unic.or.jp/files/a_res_66_127.pdf

- >
- > ●第2回 WAA のフォローアップ会議に関する具体的作業を行う場として、国連の中に高齢化作業部会が設置された。その第1回実質会合での日本代表からのステートメントは以下の通り（2011年4月、日本語）。
- > http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/enzetsu/23/un_0418.html
- >
- > ●第2回 WAA 政治宣言（2002年、日本語訳）
- > <http://www8.cao.go.jp/kourei/program/madrid2002/pd2002.html>
- >
- > ●高齢化に関するマドリッド国際行動計画 2002（第2回 WAA、日本語訳）
- > <http://www8.cao.go.jp/kourei/program/madrid2002/plan2002.html>
- >
- > （参考）
- > ●第2回 WAA ロゴ（2002年）
- > <http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2003/zenbun/html/F2211200.html>
- >
- > ●国際高齢者年のロゴ「全ての世代のための社会をめざして」（1999年）
- > http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2000/zu_141.htm
- >
- > 日本政府の動き（外務省、厚労省等）
- >
- > ●厚生労働省の ASEAN アクティブエイジングの地域会合の情報。
- >
- > 日本の経験をアジアに伝えるプロジェクトが動き出しそう（2014年6月）
- > <http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000047645.html>
- >
- > ●JICA が高齢化と国際人口移動に関するシンポジウムを開催（2014年5月）
- > http://jica-ri.jica.go.jp/ja/topic/post_119.html?alert=20140616
- >
- > ●「ASEAN・日本社会保障ハイレベル会合」の概要（2013年12月）
- > <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kokusaigyomu/asean/2013/kekka.html>
- >
- > その他（海外の動き等）
- >
- > ●国連人口基金の報告書（2012年10月、日本語版）
- > <http://www.unfpa.or.jp/publications/index.php?eid=00034>

>

> ●「アクティブエイジングと世代間の連帯のための欧州年」と定めた（2012年）

> <http://eumag.jp/feature/b0412/>

>

> （参考）

> ●アクティブエイジングの考え方については、WHOが2002年の第2回WAAに提出したレポートに詳述（2007年10月、日本語版として出版）

> http://whqlibdoc.who.int/hq/2002/WHO_NMH_NPH_02.8_jpn.pdf

◎高齢化世界会議の件

岡本 憲之 [okamoto@npo-jtta.jp]

2014/07/14（月）7:57

'michio ozaki'; 'masanori horiuchi'; 'Masahiko NISHIUCHI'; 'Kiyoko IKEGAMI';
'ilejapan'; 'Reiko Hayashi'; '村上清明'

皆様

岡本です。第2回高齢化世界会議招致推進の会（仮称）準備会を下記の通り開催致します。今回はご都合の悪い先生方もおられるかもしれませんが、取り敢えずご出席頂ける方々での会合を開催させて頂ければ幸いです。

日時：8月18日（月）15:00～17:00

場所：三菱総研会議室（前回と同じ会議室です）

私の個人的な意見ですが、高齢化世界会議招致に向けて、日本国政府に重い腰を上げてもらうためには、

弱者としての高齢者問題、すなわち人権・人道的側面だけにスポットを当てるよりも、むしろ

高齢化課題解決を通じて活力ある高齢社会を実現、すなわち革新的な技術、ライフスタイル、社会システムなどエイジング・イノベーションやアクティブ・エイジングといった明るい高齢社会づくりを強調する方が望ましいのかな・・・

などと考えたりしております。それによって、高齢化と人口減少が同時進行する日本をはじめ、アジア新興国なども開催に前向きになり、世界会議開催の実現性が高まるのではないかと・・・

そのような考え方に対するご批判も含めてより現実的なご議論をお願いできれば
と思っております。

以上、宜しくお願い申し上げます。

◎Re: 高齢化世界会議の件

reikohayashi2007@gmail.com が次の人の代理で送信しました

:: Reiko Hayashi [hayashi-reiko@ipss.go.jp]

2014/07/20 (日) 9:32

宛先岡本 憲之

c c michio ozaki; masanori horiuchi; Masahiko NISHIUCHI; ilejapan; Kiyoko
IKEGAMI; 村上清明

みなさま

その後、UNESCAP(国連アジア太平洋経済社会委員会)関係者から返事が来まして、2013
年に開催したアジア太平洋人口開発会議のフォローアップを2018年に行う予定にはしてい
るが、特にアジア高齢者会議というものは予定していない、どこからそのような話が出た
のか、と逆に聞かれました。

この間の会議で、どなたが2018年アジア高齢者会議の話をしたのか、よく覚えていないの
ですが、その情報源などについてもわかればよろしいのではないかと思います。

林玲子

国立社会保障・人口問題研究所 国際関係部長

〒100-0011 千代田区内幸町 2-2-3 日比谷国際ビル 6F

Tel : 03-3595-2984 内線 4420 Fax : 03-3591-4821 hayashi-reiko@ipss.go.jp

Reiko Hayashi, Ph.D.

Director

Department of International Research and Cooperation National Institute of
Population and Social Security Research (IPSS) Hibiya Kokusai Building 6th Floor
2-2-3 Uchisaiwaicyo, Chiyoda-ku, Tokyo 100-0011

Tel: +81-(0)3-3595-2984 ext.4420 fax : +81-(0)3-3591-4821

2014年7月13日 10:52 Reiko Hayashi <hayashi-reiko@ipss.go.jp>:

> 岡本様、みなさま

>

> 資料の送付などありがとうございました。

> 18日ですが、まだ時間が確定してないのですが、会議が入る予定になっています。また近くなったら出欠を連絡いたします。

>

> さて、国連の担当者（経済社会局社会政策・開発課高齢化担当）に2022年の世界高齢者会議の開催予定について問い合わせましたところ、現在のところ、国連が会議を行うよう委託されているわけでも計画があるわけでもない。

> - 2002年は1982年から20年経って人口変化があったので新たな行動計画を立てる必要があったため開催した。

> - 2022年に国連として会議を開催するには、国連加盟国が提案をし、他の加盟国を説得し、予算のめどを立てることが必要。

> - 現在のところ、そのような動きは全くない。ということでした。ハードルは高いと思われます。

> ESCAPの方も現在担当者に問い合わせ中で、返事を待っているところです。場合によれば、こちらの方が開催も近いし、ベターかもしれませんね。

> *****

> 林玲子

> 国立社会保障・人口問題研究所 国際関係部長

> 〒100-0011 千代田区内幸町2-2-3 日比谷国際ビル6F

> Tel: 03-3595-2984 内線 4420 Fax: 03-3591-4821 hayashi-reiko@ipss.go.jp

>

> Reiko Hayashi, Ph.D.

> Director

> Department of International Research and Cooperation National

> Institute of Population and Social Security Research (IPSS) Hibiya

> Kokusai Building 6th Floor

> 2-2-3 Uchisaiwaicyo, Chiyoda-ku, Tokyo 100-0011

> Tel: +81-(0)3-3595-2984 ext.4420 fax : +81-(0)3-3591-4821

>

> 2014年7月7日 22:45 岡本 憲之 <okamoto@npo-jtta.jp>:

>> 皆様

>>

>> 日本シンクタンクアカデミーの岡本です。本日はご多忙の中、高齢化世界会議招致推進の会にご参加下さり有難うございました。お陰様で大変有意義なご意見を賜ったかと思っております。

>> さて次回の会合ですが、三菱総研村上研究理事から会議室の空いている日のご連絡を頂きました。それによると8月18日～29日では、8月18日（月）のみだそうです（今日と同じ部屋で15:00～17:00を仮押さえ下さったそうです）。もし不都合であれば9月で再調整して頂けるとのことですので、ご検討の上ご都合をご連絡して頂ければ幸いです。

>> なお、本日申し上げました、取り敢えず皆様に定期的にお送りするメルマガの件ですが、そのイメージは以下のような感じです。もしご意見等がございましたらお寄せ頂ければ有り難く存じます。また、西内様よりご指摘のありました、2002年のマドリード会議出席者の対談ですが、ファイルを添付致します。

>> 以上、宜しくお願い申し上げます。

>> _____

>> メルマガのイメージは以下のような感じです（月刊の場合）

>> _____

>> メルマガ（今月の動き：○年○月○日～○年○月○日）

>> I 国内外の新たな動き（WAAに関連する新たな動き）

>>

>> II 賛同者の新たな言動（WAAに関連する言動）

>>

>> III 幹事会の新たな活動（WAA招致に関連する活動）

>>

>> _____

>> WAA 関連データ集（カテゴリー別→時系列に追加累積する形で更新）

>>

>> 国連の動き

>> ●第4回実質会合での春木彰子氏のステートメント（2013年8月、英文）

>> <http://www.un.emb-japan.go.jp/jp/statements/haruki081213.html>

>>

>> ●第2回WAAのフォローアップ会議、第67回国連総会（2013年2月、英文）

>> http://www.un.org/en/ga/search/view_doc.asp?symbol=A/RES/67/143

>>

>> ●第2回WAAのフォローアップ会議、第66回国連総会（2012年3月、日本語訳）

>> http://www.unic.or.jp/files/a_res_66_127.pdf

>>

>> ●第2回 WAA のフォローアップ会議に関する具体的作業を行う場として、国連の中に高齢化作業部会が設置された。その第1回実質会合での日本代表からのステートメントは以下の通り（2011年4月、日本語）。

>> http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/enzetsu/23/un_0418.html

>>

>> ●第2回 WAA 政治宣言（2002年、日本語訳）

>> <http://www8.cao.go.jp/kourei/program/madrid2002/pd2002.html>

>>

>> ●高齢化に関するマドリッド国際行動計画2002（第2回 WAA、日本語訳）

>> <http://www8.cao.go.jp/kourei/program/madrid2002/plan2002.html>

>>

>> （参考）

>> ●第2回 WAA ロゴ（2002年）

>> <http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2003/zenbun/html/F2211200.h>

>> tml

>>

>> ●国際高齢者年のロゴ「全ての世代のための社会をめざして」（1999年）

>> http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2000/zu_141.htm

>>

> 日本政府の動き（外務省、厚生労働省等）

●厚生労働省の ASEAN アクティブエイジングの地域会合の情報。

>>

>> 日本の経験をアジアに伝えるプロジェクトが動き出しそう（2014年6月）

>> <http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000047645.html>

>>

>> ●JICA が高齢化と国際人口移動に関するシンポジウムを開催（2014年5月）

>> http://jica-ri.jica.go.jp/ja/topic/post_119.html?alert=20140616

>>

>> ●「ASEAN・日本社会保障ハイレベル会合」の概要（2013年12月）

>> <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kokusaigyomu/asean/2013/kekka.html>

>>

>> その他（海外の動き等）

>>

>> ●国連人口基金の報告書（2012年10月、日本語版）

>> <http://www.unfpa.or.jp/publications/index.php?eid=00034>

>>

>> ●「アクティブエイジングと世代間の連帯のための欧州年」と定めた（2012年）

>> <http://eumag.jp/feature/b0412/>

>>

>> （参考）

>> ●アクティブエイジングの考え方については、WHOが2002年の第2回WAA提出したレポートに詳述（2007年10月、日本語版として出版）

>> http://whqlibdoc.who.int/hq/2002/WHO_NMH_NPH_02.8_jpn.pdf

◎RE: 「林さんの mail」 のこと

岡本 憲之 [okamoto@npo-jtta.jp]

2014/07/20 (日) 20:49

'masanori horiuchi'

堀内様

岡本です。ESCAPの話は元々西内さんの情報提供から出て来たものです。ESCAP主催のアジア太平洋人口開発会議は10年ごとに開催されるもので、前回の開催が2013年であり、次は2023年です。

2018年に開催されるといった話は本来あり得ないのですが、何処で混線したか・・・・？

2018年のアジア会議の件は「推進の会」が仕掛けて日本政府やESCAPなどに開催するよう働きかけたかどうかというもので、アジア太平洋人口開発会議とは別の会議です。つまり国連等の既存の定例会議ではありません。

というのが私の理解ですが、それで宜しかったですよね？

From: masanori horiuchi [<mailto:mhori888@ybb.ne.jp>]

Sent: Sunday, July 20, 2014 5:38 PM

To: '岡本 憲之'

Subject: 「林さんの mail」 のこと

岡本さんへ

堀内より

林さんの mail 2014/07/20 (日) 9:32 に関して。

この間の会議で、どなたが 2018 年アジア高齢者会議の話をしたのか、よく覚えていないのですが、その情報源などについてもわかればよろしいのではないかと思います。

会議のなかでは、尾崎さんが、

8年あるのだから。1回ではムリだから、2018年に東アジアを含めてマハテールなんかを呼んで・・・

という発言をしています。

その後、UNESCAP(国連アジア太平洋経済社会委員会)関係者から返事が来まして、2013年に開催したアジア太平洋人口開発会議のフォローアップを2018年に行う予定にはしているが、特にアジア高齢者会議というものは予定していない、どこからそのような話が出たのか、と逆に聞かれました。

2022年構想であれば8年あるわけですが、2016年、2018年をステップとすると、内容を共有する関連する団体による活動が重なることは他にも想定されます。

現段階で、林さんは2022年WAA会議よりも2018年UNSCAP会議のほうに具体性のある成果を見えています(会議でも発言)が、一人ひとりの高齢者が意識して主体的に経済活動に参加して形成する「日本長寿社会」は、それ自体が目標であり2022年はその成果の確認です。したがって幹事会はWAA22成功のための自立した推進主体です。

吉田昭彦さんについて。

岡本案に賛成です。わたしも幹事会あるいはその周辺の“ゲスト幹事”にはまったく考えておりません。百人の賛同者のお一人という意味です。「認知症」の研究者としては一家言をもち、コメツツジという実践をし、高連協の活動にも関係した方なのですから。

とり急ぎ。

◎叩き台

岡本 憲之 [okamoto@npo-jtta.jp]

'michio ozaki'; 'masanori horiuchi'2014/07/23 (水) 9:41

尾崎様、堀内様

岡本です。昨日はお疲れ様でした。

例の叩き台ですが、少し前文を加えてみました。

さらに叩いて頂ければと思います。

エイジノミクス ― 明るく活力ある超高齢社会の実現

岡本憲之

今後、東京など大都市部では急速に高齢化が進むと言われている。一方の地方では、高齢化に加え既に人口減少が始まっている。民間の有識者からなる日本創成会議は、2040年に896市区町村が消滅する恐れがあると試算した。いわゆる増田リストである。この発表は各方面に大きな衝撃を与えた。経済財政諮問会議の専門調査会である「選択する未来」委員会も、50年後の日本の人口を1億人程度に保持すべきであるとの考え方を示した。国も人口減少に歯止めをかけようと躍起になり始めたようだ。その背景には、生産年齢人口の減少が、経済を停滞させ国力の低下を招くとの危機感がある。

問題はその対策である。政府が打ち出そうとしている政策は、とにかく人口を増やすことだけを考えている節がある。もちろん人口減少に歯止めをかけるためにも、子供を産み、子供を育てやすくする環境の整備は極めて重要である。しかし本当にそれだけでよいのだろうか。経済学者の吉川洋氏は、実は人口と経済成長との間には強い相関は見られないと言っている。そして経済成長に最も影響を与えるのはイノベーションであるとも。

多くの人は高齢化に対して、「暗い」あるいは「衰退」といったイメージを持っているようだが、それは先入観かもしれない。実際、高齢化は医療技術の進歩や経済の発展、そして平和の持続によってもたらされた。また、イノベーションは変化の過程で起きる。エイジングすなわち人口構成の変化、これはイノベーションのチャンスかもしれないのである。日本をはじめ世界的に高齢化が進む中、経済社会の持続可能な発展への道筋を改めて探るべきではないか。まさにそれこそがエイジノミクスである。

先端医療技術の進歩など技術的ブレークスルーはイノベーションを生み出す。しかし技術だけではない。例えば高齢化は、分厚く多様なシニア層が新たに生まれる変化である。新たなライフスタイルやワークスタイル、あるいはエンディングスタイルが登場する。また高齢社会対応のインフラや地域包括支援制度等新たな社会システムへの移行、共助文化の醸成、あるいは世代間連携や多世代共創による新たな相乗効果の創造など、すべてがイノベーションをもたらす。まさにエイジングはイノベーションの宝庫である。

いよいよ本格的な超高齢社会を迎える日本。これからの日本は、平均寿命60年の一度きりの人生「単作時代」から、平均寿命90年の二回の人生「二毛作時代」へと向かう。そしてイノベーションのチャンスも2倍に増える。来るべき未来で待っているのは暗く衰退す

る社会ではない。イノベーションに満ち溢れた、明るく活力ある社会である。そんな超高齢社会を、高齢化で先頭を走る日本が世界で最初に実現したいものである。

資料 「高齢化世界会議」招致実現に向けたシナリオ

中心テーマ

- ・エイジングと経済社会 — 経済社会の持続可能な発展への道
- ・地球環境問題と共に経済社会の持続可能な発展の制約条件として議論されがちなエイジング問題に焦点を当てる。
- ・少子高齢化（高齢化と人口減少）は果たして「経済社会の持続可能な発展」の制約条件なのか。

招致実現への3ステップ

第1ステップ：国内「エイジノミクス会議」の開催 — 2016年開催を目標

- ・高齢化課題解決を通じたイノベーション（エイジング・イノベーション）、すなわち技術革新、ライフスタイル革新、ワークスタイル革新、社会システム変革、高齢者の意識改革・アクティブ・エイジング、世代間連携・多世代共創などへのチャレンジによって、明るく活力ある全員参加型の高齢社会を実現する道筋を示す。
- ・そのためのベストプラクティスを結集、エイジング問題が経済社会の持続可能な発展の制約条件すなわち“問題”ではないことを内外にアピール → 「エイジノミクス」という経済社会の新たな概念を提唱。

第2ステップ：アジア「エイジノミクス会議」の開催 — 2018年開催を目標

- ・日本を追いかけるように少子高齢化が進むアジア新興国などが日本に集まり、高齢化課題解決を通じた経済社会の持続可能な発展への道筋について議論する。
- ・その際、先行する日本の経験を「エイジノミクス」という新たな概念と共に世界に発信する。

第3ステップ：国連「高齢化世界会議」の開催 — 2022年開催を目標

- ・国連の「高齢化世界会議」を日本（首都圏）に招致する。第3回世界会議では、弱者としての高齢者問題ではなく、「エイジングと経済社会の発展」を中心テーマに据える。
- ・そしてエイジングが経済社会発展の制約条件（＝“問題”）とはならない、長寿と平和を享受できる「経済社会の持続可能な発展」を目指すことを宣言する。
- ・同時に日本発「エイジノミクス」を世界にアピール、我が国の製品・サービスや社会システム（高齢社会対応型まちづくり等）の輸出にも貢献する。

◎RE: 高齢化世界会議の件

岡本 憲之 [okamoto@npo-jtta.jp]

2014/07/26 (土) 8:39

宛先'Reiko Hayashi'

c c 'michio ozaki'; 'masanori horiuchi'; 'Masahiko NISHIUCHI'; 'ilcjapan'; 'Kiyoko IKEGAMI'; '村上清明'

林先生、皆様

岡本です。暑いですね！暑中お見舞い・・・かたがた

当方からの情報提供によって多少誤解を招いてしまったようですので、以下に改めて高齢化世界会議招致推進の会の考え方を纏めてみました。

本推進の会の最終的目標は、あくまで 2022 年に高齢化世界会議が日本で開催されるように、日本国政府や国連に働きかけ、それを実現させることかと考えております。

ただしそれを実現させるためには、国民世論を喚起し、然るべき雰囲気醸成していかなければならないとも考えております。

そして「8年後に世界会議をいきなり開催」を目指すのでは実現性が乏しいと考え、それ以前に先ず国内が結集した会議（2016年頃）、次にアジアが結集した会議（2018年頃）の開催を目指し、その勢いを駆って世界会議の実現にこぎつけるといったシナリオを描いてみた次第です。

したがって世界会議の前の2つの会議は、必ずしも政府や国連主催の公式（非公式）あるいは定例の会議である必要はなく、自治体や非政府組織主催の会議もありかなと考えております。（その場合主催者をどうするか検討する必要がありますが）

さらに現時点では未だ私見ですが、8年後の世界会議に向けたモチーフとして、かつてのような弱者としての高齢者問題、すなわち人権・人道問題に主眼を置くのではなく、むしろ高齢社会の経済社会的な側面に注目すべきではないかと考えております。

すなわち、「少子高齢化と経済社会の持続可能な発展」をテーマに取り上

げる方が、世論の関心を集めやすいのではないかと考えております。

以上ですが、次回の会議では是非その辺りを含めご議論頂ければ幸いです。

-----Original Message-----

From: reikohayashi2007@gmail.com [<mailto:reikohayashi2007@gmail.com>] On Behalf
Of Reiko Hayashi

Sent: Sunday, July 20, 2014 9:32 AM

To: 岡本 憲之

Cc: michio ozaki; masanori horiuchi; Masahiko NISHIUCHI; ilcjapan; Kiyoko
IKEGAMI; 村上清明

Subject: Re: 高齢化世界会議の件

みなさま

その後、UNESCAP(国連アジア太平洋経済社会委員会)関係者から返事が来まして、2013年に開催したアジア太平洋人口開発会議のフォローアップを2018年に行う予定にはしているが、特にアジア高齢者会議というものは予定していない、どこからそのような話が出たのか、と逆に聞かれました。

この間の会議で、どなたが2018年アジア高齢者会議の話をしたのか、よく覚えていないのですが、その情報源などについてもわかればよろしいのではないかと思います。

林玲子

国立社会保障・人口問題研究所 国際関係部長

〒100-0011 千代田区内幸町 2-2-3 日比谷国際ビル 6F

Tel : 03-3595-2984 内線 4420 Fax : 03-3591-4821 hayashi-reiko@ipss.go.jp

Reiko Hayashi, Ph.D.

Director

Department of International Research and Cooperation National Institute of
Population and Social Security Research (IPSS) Hibiya Kokusai Building 6th Floor
2-2-3 Uchisaiwaicyo, Chiyoda-ku, Tokyo 100-0011

Tel: +81-(0)3-3595-2984 ext.4420 fax : +81-(0)3-3591-4821

2014年7月13日 10:52 Reiko Hayashi <hayashi-reiko@ipss.go.jp>:

> 岡本様、みなさま

>

> 資料の送付などありがとうございました。

> 18日ですが、まだ時間が確定してないのですが、会議が入る予定になっています。また近くなったら出欠を連絡いたします。

> さて、国連の担当者（経済社会局社会政策・開発課高齢化担当）に2022年の世界高齢者会議の開催予定について問い合わせましたところ、現在のところ、- 国連が会議を行うよう委託されているわけでも計画があるわけでもない。

> - 2002年は1982年から20年経って人口変化があったので新たな行動計画を立てる必要があったため開催した。

> - 2022年に国連として会議を開催するには、国連加盟国が提案をし、他の加盟国を説得し、予算のめどを立てることが必要。

> - 現在のところ、そのような動きは全くない。

> ということでした。ハードルは高いと思われます。

> ESCAPの方も現在担当者に問い合わせ中で、返事を待っているところです。場合によれば、こちらの方が開催も近いし、ベターかもしれませんね。

> 林玲子

> 国立社会保障・人口問題研究所 国際関係部長

> 〒100-0011 千代田区内幸町 2-2-3 日比谷国際ビル 6F

> Tel: 03-3595-2984 内線 4420 Fax: 03-3591-4821 hayashi-reiko@ipss.go.jp

>

> Reiko Hayashi, Ph.D.

> Director

> Department of International Research and Cooperation National

> Institute of Population and Social Security Research (IPSS) Hibiya

> Kokusai Building 6th Floor

> 2-2-3 Uchisaiwaicyo, Chiyoda-ku, Tokyo 100-0011

> Tel: +81-(0)3-3595-2984 ext.4420 fax: +81-(0)3-3591-4821

>

> 2014年7月7日 22:45 岡本 憲之 <okamoto@npo-jtta.jp>:

>> 皆様

>>

>> 日本シンクタンクアカデミーの岡本です。本日はご多忙の中、高齢化世界会議招致推進の会にご参加下さり有難うございました。お陰様で大変有意義なご意見を賜ったかと思っております。

>> さて次回の会合ですが、三菱総研村上研究理事から会議室の空いている日のご連絡を頂きました。それによると8月18日～29日では、8月18日（月）のみだそうです（今日と同じ部屋で15:00～17:00を仮押さえ下さったそうです）。もし不都合であれば9月で再調整して頂けるとのことですので、ご検討の上ご都合をご連絡して頂ければ幸いです。

>> なお、本日申し上げました、取り敢えず皆様に定期的にお送りするメルマガの件ですが、そのイメージは以下のような感じです。もしご意見等がございましたらお寄せ頂ければ有り難く存じます。また、西内様よりご指摘のありました、2002年のマドリード会議出席者の対談ですが、ファイルを添付致します。

>> 以上、宜しくお願い申し上げます。

>>

>> _____

>> メルマガのイメージは以下のような感じです（月刊の場合）

>> _____

>> メルマガ（今月の動き：○年○月○日～○年○月○日）

>> I 国内外の新たな動き（WAAに関連する新たな動き）

>>

>> II 賛同者の新たな言動（WAAに関連する言動）

>>

>> III 幹事会の新たな活動（WAA招致に関連する活動）

>>

>> _____

>> WAA 関連データ集（カテゴリー別→時系列に追加累積する形で更新）

>> 国連の動き

>> ●第4回実質会合での春木彰子氏のステートメント（2013年8月、英文）

>> <http://www.un.emb-japan.go.jp/jp/statements/haruki081213.html>

>>

>> ●第2回WAAのフォローアップ会議、第67回国連総会（2013年2月、英文）

>> http://www.un.org/en/ga/search/view_doc.asp?symbol=A/RES/67/143

>>

>> ●第2回WAAのフォローアップ会議、第66回国連総会（2012年3月、日本語訳）

>> http://www.unic.or.jp/files/a_res_66_127.pdf

>>

- >> ●第2回 WAA のフォローアップ会議に関する具体的作業を行う場として、
- >> 国連の中に高齢化作業部会が設置された。その第1回実質会合での日本代表からのステートメントは以下の通り（2011年4月、日本語）。
- >> http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/enzetsu/23/un_0418.html
- >>
- >> ●第2回 WAA 政治宣言（2002年、日本語訳）
- >> <http://www8.cao.go.jp/kourei/program/madrid2002/pd2002.html>
- >>
- >> ●高齢化に関するマドリッド国際行動計画2002（第2回 WAA、日本語訳）
- >> <http://www8.cao.go.jp/kourei/program/madrid2002/plan2002.html>
- >>
- >> （参考）
- >> ●第2回 WAA ロゴ（2002年）
- >> [http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2003/zenbun/html/F2211200.h](http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2003/zenbun/html/F2211200.html)
- >> tml
- >>
- >> ●国際高齢者年のロゴ「全ての世代のための社会をめざして」（1999年）
- >> http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2000/zu_141.htm
- >>
- >> 日本政府の動き（外務省、厚労省等）
- >> ●厚生労働省の ASEAN アクティブエイジングの地域会合の情報。
- >> 日本の経験をアジアに伝えるプロジェクトが動き出しそう（2014年6月）
- >> <http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000047645.html>
- >>
- >> ●JICA が高齢化と国際人口移動に関するシンポジウムを開催（2014年5月）
- >> http://jica-ri.jica.go.jp/ja/topic/post_119.html?alert=20140616
- >>
- >> ●「ASEAN・日本社会保障ハイレベル会合」の概要（2013年12月）
- >> <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kokusaigyomu/asean/2013/kekka.html>
- >>
- >> その他（海外の動き等）
- >>
- >> ●国連人口基金の報告書（2012年10月、日本語版）
- >> <http://www.unfpa.or.jp/publications/index.php?eid=00034>
- >>
- >> ●「アクティブエイジングと世代間の連帯のための欧州年」と定めた（2012年）

>> <http://eumag.jp/feature/b0412/>

>>

>> (参考)

>> ●アクティブエイジングの考え方については、WHO が 2002 年の第 2 回 WAA に提出したレポートに詳述 (2007 年 10 月、日本語版として出版)

>> http://whqlibdoc.who.int/hq/2002/WHO_NMH_NPH_02.8_jpn.pdf

◎高齢化・人口減少と経済成長

岡本 憲之 [okamoto@npo-jtta.jp]

2014/07/27 (日) 11:48

'michio ozaki'; 'masanori horiuchi'; 'Masahiko NISHIUCHI'

尾崎様、堀内様、西内様

岡本です。少子高齢化と経済成長に関する研究ですが、やはり東大の吉川洋先生が取り組んでいるようです。一度吉川先生の所に話しに行きたいと思っています。

少子高齢化と経済成長 (要旨)

<http://www.rieti.go.jp/jp/publications/pdp/11p006.pdf>

プロダクト・イノベーションについて

<http://www.rieti.go.jp/jp/publications/dp/13j033.pdf#search='%E5%B0%91%E5%AD%90%E9%AB%98%E9%BD%A2%E5%8C%96%E3%81%A8%E7%B5%8C%E6%B8%88%E6%88%90%E9%95%B7+%E5%90%89%E5%B7%9D%E6%B4%8B'>

◎FW: NPO 法人 2050 西内です

岡本 憲之 [okamoto@npo-jtta.jp]

2014/07/28 (月) 16:31

'michio ozaki'; 'masanori horiuchi'

尾崎様、堀内様

西内さんよりコメントを頂きましたので、転送致します。

内容をブラッシュアップしていきたいと思います。

-----Original Message-----

From: Masahiko NISHIUCHI [<mailto:mnishi@mtd.biglobe.ne.jp>]

Sent: Monday, July 28, 2014 3:42 PM

To: 岡本 憲之

Subject: NPO 法人 2050 西内です

岡本様

エイジノミクスについてのまとめや次回会議の案内をありがとうございました。
若干のコメントをお送りします。

西内正彦

岡本様

2014.7.28

西内

2014.7.28 エイジノミクスコメント

エイジノミクスについてのまとめをいただきました。ありがとうございました。包括的で、理解が得やすいものだと思います。若干、気になった箇所を...

▼第2パラグラフ、「人口を増やすことだけを考えている節がある」の箇所。骨太の方針などが示しているのは、減少した人口を基に近い水準に戻そうということなので、「人口を増やす」という表現は、若干違うのでは。もしこの文書が英訳され、アジア地域で読まれると、「人口を増やす」という書き方は誤解を招きかねない気がします。

▼「資料」

- ・国内会議が2016年、アジア会議が2018年とありますが、開催年をその年に設定する特別な理由があれば、書き加えたらどうでしょうか。
- ・第2ステップの2行目「議論する」の箇所。
アジア諸国の代表が集まって議論するのは大事ですが、それと併せて、同じような高齢化の状況や、似た文化にあるアジア諸国が高齢化にどう対応しているのかという経験を交換し、学び合う「南南協力」の場とする、ということを加えたらいかがかと。
- ・第3ステップの「2022年開催を目標」→2022年に開催することに意義があるので「目標」を削除。
- ・1行目 「高齢化世界会議」を「第3回高齢化世界会議」に。

- ・なぜ、2022年なのかの説明を加える。
- ・2行目、「テーマに据える」を、「テーマに据えるよう国連に要請する」に、4行目の「宣言する」を「宣言に盛り込むよう国連に働きかける」に。
→会議を主催するのは国連。招致する日本としての希望を表明するという立場なので、若干表現を柔らかく。

世界会議では、政府代表による「本会議」と並行して、高齢化に取り組む幅広いNGOによる「NGOフォーラム」を開いて、経験やノウハウを交換し合う。さらに、各国の高齢化に関連する企業（製薬、医療、福祉機器...）がブースを設けて、製品やサービスを紹介し、商談にもつながる「エイジング・エキスポ」を開催する...というのでしょうか。

本会議では、国連が用意する「マドリッド行動計画」を最新の状況を踏まえて見直す「東京・行動計画」についての審議、2002年会議にならって、「政治宣言」の審議が行われることが想定されます。その政治宣言の中に、「経済社会の持続可能な発展を目指す」という一文が入る、ということになるのでしょうか。

「NGOフォーラム」と書きました。もし取材に行くなら非常に興味深いシンポジウムやパネルディスカッションが聞けるかもしれません。そこから、行動計画を審議している本会議に提言がでることも予想されます。

NGOもブースを設けて活動を紹介する場にすることで、交流が広がることが予想されます。ですが、フォーラム事務局、エキスポ事務局は調整が大変なことになると思われます。

以上

◎風丈 いただきました。

Masahiko NISHIUCHI [mnishi@mtd.biglobe.ne.jp]

2014/08/05 (火) 20:59

堀内 正範

堀内 さま

「風丈」をいただきました。。ありがとうございました。

高齢社会フォーラムの日の午前中は、訪問看護師が来訪する日に当たっていて、堀田さんの講演を聴けずに残念と思っていましたところ、きちんと取り上げてくださった

ので、感謝、感謝です。

猛暑は続きそうです。お互い、熱中症に気をつけましょう。

西内正彦

◎尾崎ペーパーの件

岡本 憲之 [okamoto@npo-jtta.jp]

2014/08/08 (金) 7:06

宛先'michio ozaki'; 'masanori horiuchi'

尾崎様、CC：堀内様

岡本です。昨日は有難うございました。
早速ですが尾崎ペーパーに対する意見を
以下に申し述べます。

さすが格調の高い文章、感服の至りです。
その上でですが、最初の4行が気になりました。

集団的自衛権については賛否が分かれる
中、旗色鮮明にすることは、本会が政治
的活動ではないかといったいらぬ誤解を
招く恐れはないかといった心配です。

最初の4行が無くても全体の文章（の格
調）には影響は無いように思いました。

以上が私の意見です。勝手なことを申し
上げましたが、ご検討願えれば幸いです。

◎FW: 「高齢化世界会議」招致推進の会（仮称）ご案内

岡本 憲之 [okamoto@npo-jtta.jp]

2014/08/18 (月) 22:44

宛先'michio ozaki'; 'masanori horiuchi'; 'Masahiko NISHIUCHI'; 'Kiyoko IKEGAMI'; '村上清明'

池上様、尾崎様、西内様、堀内様、村上様
岡本です。本日は有難うございました。
林先生より下記の情報が提供されましたの
で転送させていただきます。

-----Original Message-----

From: reikohayashi2007@gmail.com [<mailto:reikohayashi2007@gmail.com>] On Behalf
Of Reiko Hayashi

Sent: Monday, August 18, 2014 3:35 PM

To: 岡本 憲之

Subject: Re: 「高齢化世界会議」招致推進の会（仮称）ご案内

さて、その後、国連でポスト 2015 開発目標に関する Open Working
Group の会合が続いていますが、それに参加している国連社会政策部の人より、高齢化に
関する話題がもりあがっている、日本も政府としてプッシュしてくれないか、というメー
ルが来ました。

しかし、web 上

<http://sustainabledevelopment.un.org/index.php?menu=1528>

ではそのような書類は出ていないので、実際にはどのような状況かはよくわかりませんが。

一応、そのような流れもある、ということで、メールさせていただきました。

林玲子

国立社会保障・人口問題研究所 国際関係部長

〒100-0011 千代田区内幸町 2-2-3 日比谷国際ビル 6F

Tel : 03-3595-2984 内線 4420 Fax : 03-3591-4821 hayashi-reiko@ipss.go.jp

Reiko Hayashi, Ph.D.

Director

Department of International Research and Cooperation National Institute of
Population and Social Security Research (IPSS) Hibiya Kokusai Building 6th Floor
2-2-3 Uchisaiwaicyo, Chiyoda-ku, Tokyo 100-0011
Tel: +81-(0)3-3595-2984 ext.4420 fax : +81-(0)3-3591-4821

2014年8月18日 6:13 岡本 憲之 <okamoto@npo-jtta.jp>:

> 林先生

> 岡本です。ご欠席の件、承知致しました。

>

> -----Original Message-----

> From: reikohayashi2007@gmail.com [<mailto:reikohayashi2007@gmail.com>]

> On Behalf Of Reiko Hayashi

> Sent: Sunday, August 17, 2014 10:54 PM

> To: 岡本 憲之

> Subject: Re: 「高齢化世界会議」招致推進の会（仮称）ご案内

>

> 岡本様

>

> すみません、日時設定時には時間が未定の会議の予定があったのですが、やはりその関係で、明日の参加は難しくなりました。

> また情報共有などよろしくお願ひします。

> *****

> 林玲子

> 国立社会保障・人口問題研究所 国際関係部長

> 〒100-0011 千代田区内幸町 2-2-3 日比谷国際ビル 6F

> Tel : 03-3595-2984 内線 4420 Fax : 03-3591-4821 hayashi-reiko@ipss.go.jp

> Reiko Hayashi, Ph.D.

> Director

> Department of International Research and Cooperation National

> Institute of Population and Social Security Research (IPSS) Hibiya

> Kokusai Building 6th Floor

> 2-2-3 Uchisaiwaicyo, Chiyoda-ku, Tokyo 100-0011

> Tel: +81-(0)3-3595-2984 ext.4420 fax : +81-(0)3-3591-4821

> 2014年8月17日 19:47 岡本 憲之 <okamoto@npo-jtta.jp>:

>> 皆様

>>

>> 日本シンクタンクアカデミーの岡本です。お世話になっております。

8月18日の会合につきまして、リマインドのご案内をさせていただきますので宜しくお願い申し上げます。

>> <会議名：仮称>

>> 「高齢化世界会議」招致推進の会（仮称）第2回準備会合

>> <日時と場所>

>> 8月18日（月）15：00～17：00 於三菱総研会議室

>> <ご出席者：50音順、敬称略>

>> 阿藤誠（厚生労働統計協会会長、元国立社会保障・人口問題研究所長）

>> 池上清子（日本大学教授、元国連人口基金東京事務所長）→遅れてご出席

>> 大上真一（国際長寿センター）→ご欠席の連絡あり

>> 岡本憲之（NPO法人日本シンクタンクアカデミー、元三菱総研）

>> 尾崎美千生（人口問題協議会、元毎日新聞）

>> 西内正彦（NPO法人2050、元共同通信）

>> 林玲子（国立社会保障・人口問題研究所国際関係部長）

>> 堀内正範（丈風の会、元朝日新聞）

>> 村上清明（三菱総研研究理事）

>> なお、三菱総研の場所は、下記のサイト（URL）をご覧ください。

>> 地下1階の受付で村上研究理事と仰って頂ければご案内致します。

>> http://www.mri.co.jp/company/info/office/headoffice_map.html

◎Re: FW: 「高齢化世界会議」招致推進の会（仮称）ご案内

Kiyoko IKEGAMI [ikegami.kiyoko@nihon-u.ac.jp]

2014/08/18（月）23:13

岡本 憲之

michio ozaki; masanori horiuchi; Masahiko NISHIUCHI; 村上清明

岡本さま

今日は遅くなつての参加でした。すみませんでした。

さて、添付のOWGのoutcome documentを添付します。

高齢化については人口関連のところに掲載されているという

ことを聞きました。ざっと目を通しましたが、見落としているようです。見ていただけますか？

20ページだけですが、17目標にターゲットが170くらいあります。9番目の目標からは環境関連。それ以前が開発関連と分かれています。

これからの手続きとしては、この報告書、昨年提出された世界のリーダーの報告書、などを事務総長の下で、SDGsを担当している担当者がまとめて、国連総会に提出することになるそうです。最終的に決まるのは、気候変動関連の会議が2015年11月にあるそうです。この会議をみてから決めるのか（環境関連の内容）、開発関連を先に決めるのか、詳しいことは、この10月くらいに国連総会議長がプロセスを提示する予定になっているそうです。

（まだ決まっていないということだそうです）

林さんのコメントは、もう少しお話を伺わないと、はっきりしない点がありそうです。

以上、取り急ぎ。
いけがみ

2014年8月18日 22:43 岡本 憲之 <okamoto@npo-jtta.jp>:

池上様、尾崎様、西内様、堀内様、村上様

岡本です。本日は有難うございました。

林先生より下記の情報が提供されましたので転送させていただきます。

-----Original Message-----

From: reikohayashi2007@gmail.com [mailto:reikohayashi2007@gmail.com] On Behalf Of Reiko Hayashi

Sent: Monday, August 18, 2014 3:35 PM

To: 岡本 憲之

Subject: Re: 「高齢化世界会議」招致推進の会（仮称）ご案内

さて、その後、国連でポスト2015開発目標に関する Open Working Group の会合が続いていますが、それに参加している国連社会政策部の人より、高齢化に

関する話題がもりあがっている、日本も政府としてプッシュしてくれないか、というメールが来ました。

しかし、web上

<http://sustainabledevelopment.un.org/index.php?menu=1528>

ではそのような書類は出ていないので、実際にはどのような状況かはよくわからないのですが。

一応、そのような流れもある、ということで、メールさせていただきました。

林玲子

国立社会保障・人口問題研究所 国際関係部長

〒100-0011 千代田区内幸町 2-2-3 日比谷国際ビル 6F

Tel : 03-3595-2984 内線 4420 Fax : 03-3591-4821 hayashi-reiko@ipss.go.jp

Reiko Hayashi, Ph.D.

Director

Department of International Research and Cooperation National Institute of Population and Social Security Research (IPSS) Hibiya Kokusai Building 6th Floor
2-2-3 Uchisaiwaicyo, Chiyoda-ku, Tokyo 100-0011

Tel: [+81-\(0\)3-3595-2984](tel:+81-03-3595-2984) ext.4420 fax : [+81-\(0\)3-3591-4821](tel:+81-03-3591-4821)

2014年8月18日 6:13 岡本 憲之 <okamoto@npo-jtta.jp>:

林先生

岡本です。ご欠席の件、承知致しました。

-----Original Message-----

From: reikohayashi2007@gmail.com [mailto:reikohayashi2007@gmail.com]

On Behalf Of Reiko Hayashi

Sent: Sunday, August 17, 2014 10:54 PM

To: 岡本 憲之

Subject: Re: 「高齢化世界会議」招致推進の会（仮称）ご案内

岡本様

すみません、日時設定時には時間が未定の会議の予定があったのですが、やはりその関係で、明日の参加は難しくなりました。

また情報共有などよろしくお願ひします。

林玲子

国立社会保障・人口問題研究所 国際関係部長

〒100-0011 千代田区内幸町 2-2-3 日比谷国際ビル 6F

Tel : 03-3595-2984 内線 4420 Fax : 03-3591-4821 hayashi-reiko@ipss.go.jp

Reiko Hayashi, Ph.D.

Director

Department of International Research and Cooperation National
Institute of Population and Social Security Research (IPSS) Hibiya
Kokusai Building 6th Floor

2-2-3 Uchisaiwaicyo, Chiyoda-ku, Tokyo 100-0011

Tel: [+81-\(0\)3-3595-2984 ext.4420](tel:+81-03-3595-2984) fax : [+81-\(0\)3-3591-4821](tel:+81-03-3591-4821)

2014年8月17日 19:47 岡本 憲之 <okamoto@npo-jtta.jp>:

皆様

日本シンクタンクアカデミーの岡本です。お世話になっております。

8月18日の会合につきまして、リマインドのご案内をさせていただきますので宜しくお願ひ申し上げます。

<会議名：仮称>

「高齢化世界会議」招致推進の会（仮称）第2回準備会合

<日時と場所>

8月18日（月）15：00～17：00 於三菱総研会議室

<ご出席者：50音順、敬称略>

阿藤誠（厚生労働統計協会会長、元国立社会保障・人口問題研究所長）

池上清子（日本大学教授、元国連人口基金東京事務所長）→遅れてご出席

大上真一（国際長寿センター）→ご欠席の連絡あり

岡本憲之（NPO 法人日本シンクタンクアカデミー、元三菱総研）

尾崎美千生（人口問題協議会、元毎日新聞）

西内正彦（NPO 法人 2050、元共同通信）

林玲子（国立社会保障・人口問題研究所国際関係部長）

堀内正範（丈風の会、元朝日新聞）

村上清明（三菱総研研究理事）

なお、三菱総研の場所は、下記のサイト（URL）をご覧ください。

地下1階の受付で村上研究理事と仰って頂ければご案内致します。

http://www.mri.co.jp/company/info/office/headoffice_map.html

池上清子

日本大学大学院 総合社会情報研究科 教授

国際情報専攻主任

大学院 HP アドレス : <http://atlantic2.gssc.nihon-u.ac.jp/>

email: ikegami.kiyoko@nihon-u.ac.jp



Post2015 OWG
Outcome document;

◎RE: FW: 「高齢化世界会議」招致推進の会（仮称）ご案内

岡本 憲之 [okamoto@npo-jtta.jp]

送信日時 2014/08/19 (火) 7:48

宛先 'Kiyoko IKEGAMI'

c c 'michio ozaki'; 'masanori horiuchi'; 'Masahiko NISHIUCHI'; '村上清明'

池上先生

岡本です。早速情報提供下さり有難うございます。

国連では高齢者（個人）の問題は扱っても高齢化（社会）の問題は扱わないのかどうか分かりませんが、確かに現時点では高齢化（社会）の問題に対する言及が見られない・・・・・・？

OWG に関しては皆様と情報共有の上、勉強させて頂きたいと存じますので、引き続き宜しくお願い申し上げます。

From: Kiyoko IKEGAMI [<mailto:ikegami.kiyoko@nihon-u.ac.jp>]

Sent: Monday, August 18, 2014 11:13 PM

To: 岡本 憲之

Cc: michio ozaki; masanori horiuchi; Masahiko NISHIUCHI; 村上清明

Subject: Re: FW: 「高齢化世界会議」招致推進の会（仮称）ご案内

岡本さま

今日は遅くなっての参加でした。すみませんでした。
さて、添付の OWG の outcome document を添付します。

高齢化については人口関連のところに掲載されているということ
を聞きました。ざっと目を通しましたが、見落としているようです。
見ていただけますか？

20 ページだけですが、17 目標にターゲットが 170 くらいあります。
9 番目の目標からは環境関連。それ以前が開発関連と分かれています。

これからの手続きとしては、この報告書、昨年提出された世界のリーダーの
報告書、などを事務総長の下で、SDGs を担当している担当者が
まとめて、国連総会に提出することになるそうです。最終的に決まるのは、
気候変動関連の会議が 2015 年 11 月にあるそうです。この会議を
みてから決めるのか（環境関連の内容）、開発関連を先に決めるのか、
詳しいことは、この 10 月くらいに国連総会議長がプロセスを提示する
予定になっているそうです。
(まだ決まっていないということだそうです)

林さんのコメントは、もう少しお話を伺わないと、はっきりしない点
ありそうです。

以上、取り急ぎ。
いけがみ

2014 年 8 月 18 日 22:43 岡本 憲之 <okamoto@npo-jtta.jp>:

池上様、尾崎様、西内様、堀内様、村上様

岡本です。本日は有難うございました。

林先生より下記の情報が提供されましたの
で転送させていただきます。

-----Original Message-----

From: reikohayashi2007@gmail.com [mailto:reikohayashi2007@gmail.com] On Behalf
Of Reiko Hayashi
Sent: Monday, August 18, 2014 3:35 PM
To: 岡本 憲之
Subject: Re: 「高齢化世界会議」招致推進の会（仮称）ご案内

さて、その後、国連でポスト 2015 開発目標に関する Open Working
Group の会合が続いていますが、それに参加している国連社会政策部の人より、高齢化に
関する話題がもりあがっている、日本も政府としてプッシュしてくれないか、というメー
ルが来ました。

しかし、web 上

<http://sustainabledevelopment.un.org/index.php?menu=1528>

ではそのような書類は出ていないので、実際にはどのような状況かはよくわからないので
すが。

一応、そのような流れもある、ということで、メールさせていただきました。

林玲子

国立社会保障・人口問題研究所 国際関係部長

〒100-0011 千代田区内幸町 2-2-3 日比谷国際ビル 6F

Tel : 03-3595-2984 内線 4420 Fax : 03-3591-4821 hayashi-reiko@ipss.go.jp

Reiko Hayashi, Ph.D.

Director

Department of International Research and Cooperation National Institute of
Population and Social Security Research (IPSS) Hibiya Kokusai Building 6th Floor
2-2-3 Uchisaiwaicyo, Chiyoda-ku, Tokyo 100-0011

Tel: [+81-\(0\)3-3595-2984](tel:+81-03-3595-2984) ext.4420 fax : [+81-\(0\)3-3591-4821](tel:+81-03-3591-4821)

2014年8月18日 6:13 岡本 憲之 <okamoto@npo-jtta.jp>:

林先生

岡本です。ご欠席の件、承知致しました。

-----Original Message-----

From: reikohayashi2007@gmail.com [mailto:reikohayashi2007@gmail.com]

On Behalf Of Reiko Hayashi

Sent: Sunday, August 17, 2014 10:54 PM

To: 岡本 憲之

Subject: Re: 「高齢化世界会議」招致推進の会（仮称）ご案内

岡本様

すみません、日時設定時には時間が未定の会議の予定があったのですが、やはりその関係で、明日の参加は難しくなりました。

また情報共有などよろしくお願ひします。

林玲子

国立社会保障・人口問題研究所 国際関係部長

〒100-0011 千代田区内幸町 2-2-3 日比谷国際ビル 6F

Tel : 03-3595-2984 内線 4420 Fax : 03-3591-4821 hayashi-reiko@ipss.go.jp

Reiko Hayashi, Ph.D.

Director

Department of International Research and Cooperation National

Institute of Population and Social Security Research (IPSS) Hibiya

Kokusai Building 6th Floor

2-2-3 Uchisaiwaicyo, Chiyoda-ku, Tokyo 100-0011

Tel: [+81-\(0\)3-3595-2984](tel:+81-03-3595-2984) ext.4420 fax : [+81-\(0\)3-3591-4821](tel:+81-03-3591-4821)

2014年8月17日 19:47 岡本 憲之 <okamoto@npo-jtta.jp>:

皆様

日本シンクタンクアカデミーの岡本です。お世話になっております。

8月18日の会合につきまして、リマインドのご案内をさせていただきますので宜しくお願ひ申し上げます。

<会議名：仮称>

「高齢化世界会議」招致推進の会（仮称）第2回準備会合

<日時と場所>

8月18日（月）15：00～17：00 於三菱総研会議室

<ご出席者：50音順、敬称略>

阿藤誠（厚生労働統計協会会長、元国立社会保障・人口問題研究所長）

池上清子（日本大学教授、元国連人口基金東京事務所長）→遅れてご出席

大上真一（国際長寿センター）→ご欠席の連絡あり

岡本憲之（NPO 法人日本シンクタンクアカデミー、元三菱総研）

尾崎美千生（人口問題協議会、元毎日新聞）

西内正彦（NPO 法人 2050、元共同通信）

林玲子（国立社会保障・人口問題研究所国際関係部長）

堀内正範（丈風の会、元朝日新聞）

村上清明（三菱総研研究理事）

なお、三菱総研の場所は、下記のサイト（URL）をご覧ください。

地下 1 階の受付で村上研究理事と仰って頂ければご案内致します。

http://www.mri.co.jp/company/info/office/headoffice_map.html

-

池上清子

日本大学大学院 総合社会情報研究科 教授 国際情報専攻主任

大学院 HP アドレス：<http://atlantic2.gssc.nihon-u.ac.jp/>

email: ikegami.kiyoko@nihon-u.ac.jp

©FW: Ageing included in Sustainable Development Goals document!

岡本 憲之 [okamoto@npo-jtta.jp]

送信日時 2014/08/19 (火) 18:58

宛先'michio ozaki'; 'masanori horiuchi'; 'Kiyoko IKEGAMI'; 'Reiko Hayashi'; 'ilcJapan'; '

村上清明'

c c 'Masahiko NISHIUCHI'

皆様

岡本です。西内様より下記の貴重な情報をご提供

頂きましたので、転送させていただきます。

From: masahiko Nishiuchi [<mailto:masahi2012@hotmail.co.jp>]

Sent: Tuesday, August 19, 2014 11:44 AM

To: 岡本 憲之

Subject: Fw: Ageing included in Sustainable Development Goals document!

岡本 様

昨日はお疲れ様でした。

池上さんのメールにあった post2015 のアジェンダと高齢化の話が掲載されています。

皆さんに転送していただくと幸いです。

西内正彦

From: [HelpAge International](#)

Sent: Wednesday, August 13, 2014 9:03 PM

To: [MASAHIKO NISHIUCHI](#)

Subject: Ageing included in Sustainable Development Goals document!

[Like](#) [Tweet](#) [Pin](#) [+1](#) [in](#)



Global AgeWatch

Data and analysis on population ageing

Wednesday, 13 August

Dear MASAHIKO,

Welcome to Global AgeWatch. Every two months, we provide you with the latest ageing developments and resources. Please forward this to any contacts who would find it useful and may want to [sign up](#).

Ageing makes it into SDGs – for now

The outcome document of targets and goals that should form the basis of the Sustainable Development Goals (SDGs) now includes older people.

The document was adopted by Member States at the thirteenth and final session of the Open Working Group on the Sustainable Development Goals.

By September 2015 this document – which mentions age, the commitment to disaggregate data by age, and the words "older people" – should be the basis for the SDGs.

"We are delighted to say that age is in the proposed framework and goals, and now we must keep it there," writes Sylvia Beales in her [blog](#) outlining some of the achievements from the meeting.

The full outcome document can be [downloaded here](#).



UN Human Development Report recognises risks in older age

For the first time, the [Human Development Report](#) has a section on ageing.

The report, by the United Nations Development Programme, examines reducing vulnerabilities and promoting development across the life course and calls for support for older people.

Professor Asghar Zaidi, who contributed to the report, writes about building resilience at all stages of life in [his blog](#).

Moving towards a convention

The Open-ended Working Group on Ageing ended with [a strong call from civil society and governments](#) for further discussion on the main elements of a potential new convention on the rights of older people.



Kenneth Hemley, left, hands the petition to Mateo Estrémé (c) HelpAge

Representatives of more than 100 governments met at the fifth session of the OEWGA to discuss a convention.

Older people's activist Kenneth Hemley, 73, handed a petition calling for a convention to the group's chairman Mateo Estrémé. The petition was signed by nearly 280,000 Age Demands Action campaign supporters.

Ageing in key HIV reports

The [WHO's Global Update](#) on the Health Sector Response to HIV recognises the health challenges faced by people aged 50+ living with HIV and points to the need for services for this age group.

This comes quickly after the [UNAIDS Gap Report](#) which includes a chapter on people aged 50+ for the first time. It contains new statistics showing that 13% of the global adult population living with HIV are now aged 50 or over, and discusses the implications.

Pakistan province approves Senior Citizen Bill

Pakistan has approved its first piece of legislation to protect older people's rights,

The province of Khyber Paktunkhwa has [approved a Senior Citizen Bill](#) which will help older people access better health, transportation and entry to recreational places. Plus

every person over 60 will receive a monthly income.



Useful reading

Bangladesh's older widows

In this [blog](#) HelpAge's Bangladesh Communications Coordinator Shegufta Sharmin outlines some of the problems older widows face in her country.

Surviving in Syria

The plight of older and disabled refugees in Syria is described in this [blog](#) by HelpAge's Regional Programme Coordinator Lydia de Leeuw. The conflict's older women survivors are also the subject of this [article in Marie Claire](#) magazine.

Older people in poverty

There is a section on older people in this [report](#) of the UN's Independent Expert on poverty Magdalena Sepulveda who visited Moldova in September 2013. The report was launched last month.

Don't forget young – or old

World Population Day on 11 July focused on young people. But forget nations' older populations at your peril, writes HelpAge's Mark Gorman in this [Global AgeWatch blog](#).

New study of human longevity

A new ageing study of human longevity considers several approaches to study effects of early-life and mid-life conditions on survival to advanced age. Determinants of Exceptional Human Longevity: New Ideas and Findings, Vienna Yearbook of Population Research, 2013 can be found [here](#).

Meeting the new UN ageing expert

HelpAge's Deputy Chief Executive Silvia Stefanoni discusses older people's rights with the

new UN Independent Expert on Ageing Rosa Kornfeld Matte in this [blog post](#).

Leave no one behind

People of all ages must be included the Sustainable Development Goals. No one must be left behind, explains HelpAge's HIV and AIDS policy adviser Rachel Albone in this [blog for Devex](#).

Campaigning for a convention

HelpAge Chief Executive Toby Porter talks about the need for a UN convention on older people's rights in this [article on AllAfrica.com](#).

New research on sexual abuse of older women

This podcast on the BBC's Woman's Hour has a section introducing new Australian research on sexual abuse of older women. You can [listen to it here](#). The Australian research report called Norma's Project can be found [here](#).

Older women and violence

DFID's Violence Against Women and Girls Evidence [digest](#) on Gender Based Violence notes the vulnerabilities of older women.

Registered charity no. 288180



©2014 HelpAge International | PO Box 70156, London, WC1H 9NA, UK

[Web](#)

[Version](#)

[Forward](#)

[Unsubscribe](#)

◎高齢化世界会議メルマガ

岡本 憲之 [okamoto@npo-jtta.jp]

送信日時 2014/08/20 (水) 16:57

宛先'michio ozaki'; 'masanori horiuchi'; 'Masahiko NISHIUCHI'; 'Kiyoko IKEGAMI';
'Reiko Hayashi'; '村上清明'; 'ilc-japan'

c c 岡本憲之

幹事会の皆様

(月刊メルマガ)のフォーマットが確定するまでの間、幹事会の皆様から高齢化世界会議に関する情報をお寄せ頂いた場合、適時幹事会の皆様全員に配信させて頂くことに致しますので、ご了承頂たく宜しくお願ひ申し上げます。

仮のメルマガ(当面、不定期に配信致します)

暫定的な仮のメルマガ(2014年8月20日)**I 国内外の新たな動き(WAAに関連する新たな動き)****II 賛同者の新たな言動(WAAに関連する言動)****III 幹事会の皆様の新たな言動(WAA招致に関連する言動)****追記**

- ・WAA関連データ集の「国連の動き」に、ポスト2015開発目標に関するデータを加えました(林先生ご提供データ)。なお、池上先生ご提供のデータは、「OUTCOME DOCUMENTS」の上から3番目と同一と思われます。
- ・WAA関連データ集の「国連の動き」に、A/RES/68/134を加えました。
- ・WAA関連データ集の「その他(海外の動き等)」に、Global Commission・・・を加えました。
- ・WAA関連データ集の「その他(海外の動き等)」(参考)に米国の窓口

以下 5 件を加えました（1 番最新のデータが村上様ご提供の下 2 件です）。

以上

WAA 関連データ集（カテゴリー別→時系列に追加累積する形で更新）

国連の動き

- ポスト 2015 開発目標に関する Open Working Group の会合
<http://sustainabledevelopment.un.org/index.php?menu=1528>
- 第 2 回 WAA のフォローアップ会議、第 68 回国連総会（2014 年 1 月、英文）
http://www.un.org/en/ga/search/view_doc.asp?symbol=A/RES/68/134
- 第 4 回実質会合での春木彰子氏のステートメント（2013 年 8 月、英文）
<http://www.un.emb-japan.go.jp/jp/statements/haruki081213.html>
- 第 2 回 WAA のフォローアップ会議、第 67 回国連総会（2013 年 2 月、英文）
http://www.un.org/en/ga/search/view_doc.asp?symbol=A/RES/67/143
- 第 2 回 WAA のフォローアップ会議、第 66 回国連総会（2012 年 3 月、日本語訳）
http://www.unic.or.jp/files/a_res_66_127.pdf
- 第 2 回 WAA のフォローアップ会議に関する具体的作業を行う場として、
国連の中に高齢化作業部会が設置された。その第 1 回実質会合での
日本代表からのステートメントは以下の通り（2011 年 4 月、日本語）。
http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/enzetsu/23/un_0418.html
- 第 2 回 WAA 政治宣言（2002 年、日本語訳）
<http://www8.cao.go.jp/kourei/program/madrid2002/pd2002.html>
- 高齢化に関するマドリッド国際行動計画 2002（第 2 回 WAA、日本語訳）
<http://www8.cao.go.jp/kourei/program/madrid2002/plan2002.html>

（参考）

- マドリッド国際行動計画のレビューと評価は 5 年毎に行われます。
<http://undesadspd.org/Ageing/MadridPlanofActionanditsImplementation/ReviewandAppraisaloftheMIPAA.aspx>
- 第 2 回 WAA ロゴ（2002 年）
<http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2003/zenbun/html/F2211200.html>
- 国際高齢者年のロゴ「全ての世代のための社会をめざして」（1999 年）
http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2000/zu_141.htm

日本政府の動き（外務省、厚労省等）

- 厚生労働省の ASEAN アクティブエイジングの地域会合の情報。
日本の経験をアジアに伝えるプロジェクトが動き出しそう（2014年6月）
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000047645.html>
- JICA が高齢化と国際人口移動に関するシンポジウムを開催（2014年5月）
http://jica-ri.jica.go.jp/ja/topic/post_119.html?alert=20140616
- 「ASEAN・日本社会保障ハイレベル会合」の概要（2013年12月）
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kokusaigyomu/asean/2013/kekka.html>

その他（海外の動き等）

- 「Global Commission on Agein in Developing Countries」が北京で立ち上がっています。中国も WAA 招致に積極的か？（2013年1月）
<http://www.partners-popdev.org/ageing/>
- 国連人口基金の報告書（2012年10月、日本語版）
<http://www.unfpa.or.jp/publications/index.php?eid=00034>
- 「アクティブエイジングと世代間の連帯のための欧州年」と定めた（2012年）
<http://eumag.jp/feature/b0412/>

（参考）

- アクティブエイジングの考え方については、WHO が 2002 年の第 2 回 WAA に提出したレポートに詳述（2007年10月、日本語版として出版）
http://whqlibdoc.who.int/hq/2002/WHO_NMH_NPH_02.8_jpn.pdf
- 米国の高齢化に関する窓口です。
<http://www.usa.gov/directory/federal/administration-on-aging.shtml>
- 国連に関連する NGO のリスト、および高齢化に関する NGO Help Age International（国連人口基金が 2 年前に出した「Agein in the Twenty-First Cencury」の共同執筆団体の 1 つでもあります）
<http://undesadspd.org/Ageing/InternationalDayofOlderPersons/1998/UNNGOCommitteonAgeing.aspx>
<http://www.helpage.org/>
- 国連に関わるブログ「高齢化に関するグローバルアクション」
<http://globalaging.blogspot.jp/>
- 下記は、オンライン情報誌 Curve
http://curve.gettyimages.com/article/new_old_JP
- EU でもイノベーションの議論がなされています。
http://ec.europa.eu/research/innovation-union/index_en.cfm?section=active-healthy-ageing&pg=about

◎Re: 高齢化世界会議メルマガ

reikohayashi2007@gmail.com; が次の人の代理で送信しました

Reiko Hayashi [hayashi-reiko@ipss.go.jp]

2014/08/20 (水) 17:25

岡本 憲之

c c michio ozaki; masanori horiuchi; Masahiko NISHIUCHI; Kiyoko IKEGAMI; 村上
清明; ilcJapan

岡本様

どうもありがとうございました。SDGのOWG文書は、今ダウンロードできなくなっていますね。また新しくなってアップされるのかもしれませんが。

とにかく、西内さんが転送してくれたHelpAgeのサイトにありましたが、このOWG文書に、「Olderpersons」という文言が3カ所入ったことが、大きな進展であったようですね。

林玲子

国立社会保障・人口問題研究所 国際関係部長

〒100-0011 千代田区内幸町 2-2-3 日比谷国際ビル 6F

Tel: 03-3595-2984 内線 4420 Fax: 03-3591-4821 hayashi-reiko@ipss.go.jp

Reiko Hayashi, Ph.D.

Director

Department of International Research and Cooperation National Institute of

Population and Social Security Research (IPSS) Hibiya Kokusai Building 6th Floor

2-2-3 Uchisaiwaicho, Chiyoda-ku, Tokyo 100-0011

Tel: +81-(0)3-3595-2984 ext.4420 fax: +81-(0)3-3591-4821

2014年8月20日 16:57 岡本 憲之 <okamoto@npo-jtta.jp>:

幹事会の皆様

(月刊メルマガ)のフォーマットが確定するまでの間、幹事会の皆様から高齢化世界会議に関する情報をお寄せ頂いた場合、適時幹事会の皆様全員に配信させて頂くことに致しますので、ご了承賜りたく宜しくお願い申し上げます。

仮のメルマガ(当面、不定期に配信致します)

暫定的な仮のメルマガ（2014年8月20日）

- I 国内外の新たな動き（WAAに関連する新たな動き）
- II 賛同者の新たな言動（WAAに関連する言動）
- III 幹事会の皆様の新たな言動（WAA招致に関連する言動）

追記

・WAA関連データ集の「国連の動き」に、ポスト2015開発目標に関するデータを加えました（林先生ご提供データ）。なお、池上先生ご提供のデータは、「OUTCOME DOCUMENTS」の上から3番目と同一と思われます。

・WAA関連データ集の「国連の動き」に、A/RES/68/134を加えました。

・WAA関連データ集の「その他（海外の動き等）」に、Global Commission・・・を加えました。

・WAA関連データ集の「その他（海外の動き等）」（参考）に米国の窓口以下5件を加えました（1番最新のデータが村上様ご提供の下2件です）。

以上

WAA関連データ集（カテゴリー別→時系列に追加累積する形で更新）

国連の動き

- ポスト2015開発目標に関するOpen Working Groupの会合

<http://sustainabledevelopment.un.org/index.php?menu=1528>

- 第2回WAAのフォローアップ会議、第68回国連総会（2014年1月、英文）

http://www.un.org/en/ga/search/view_doc.asp?symbol=A/RES/68/134

- 第4回実質会合での春木彰子氏のステートメント（2013年8月、英文）

<http://www.un.emb-japan.go.jp/jp/statements/haruki081213.html>

- 第2回WAAのフォローアップ会議、第67回国連総会（2013年2月、英文）

http://www.un.org/en/ga/search/view_doc.asp?symbol=A/RES/67/143

- 第2回WAAのフォローアップ会議、第66回国連総会（2012年3月、日本語訳）

http://www.unic.or.jp/files/a_res_66_127.pdf

- 第2回WAAのフォローアップ会議に関する具体的作業を行う場として、国連の中に高齢化作業部会が設置された。その第1回実質会合での日本代表からのステートメントは以下の通り（2011年4月、日本語）。

http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/enzetsu/23/un_0418.html

- 第2回WAA政治宣言（2002年、日本語訳）

> <http://www8.cao.go.jp/kourei/program/madrid2002/pd2002.html>

- 高齢化に関するマドリッド国際行動計画2002（第2回WAA、日本語訳）

<http://www8.cao.go.jp/kourei/program/madrid2002/plan2002.html>

(参考)

- マドリッド国際行動計画のレビューと評価は5年毎に行われます。

<http://undesadspd.org/Ageing/MadridPlanofActionanditsImplementation/ReviewandAppraisaloftheMIPAA.aspx>

- 第2回 WAA ロゴ (2002年)

<http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2003/zenbun/html/F2211200.html>

- 国際高齢者年のロゴ「全ての世代のための社会をめざして」(1999年)

http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2000/zu_141.htm

日本政府の動き(外務省、厚労省等)

- 厚生労働省のASEAN アクティブエイジングの地域会合の情報。

日本の経験をアジアに伝えるプロジェクトが動き出しそう(2014年6月)

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000047645.html>

- JICAが高齢化と国際人口移動に関するシンポジウムを開催(2014年5月)

http://jica-ri.jica.go.jp/ja/topic/post_119.html?alert=20140616

- 「ASEAN・日本社会保障ハイレベル会合」の概要(2013年12月)

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kokusaigyomu/asean/2013/kekka.html>

その他(海外の動き等)

- 「Global Commission on Ageing in Developing Countries」が北京で立ち上がっています。中国もWAA招致に積極的か?(2013年1月)

<http://www.partners-popdev.org/ageing/>

- 国連人口基金の報告書(2012年10月、日本語版)

<http://www.unfpa.or.jp/publications/index.php?eid=00034>

- 「アクティブエイジングと世代間の連帯のための欧州年」と定めた(2012年)

<http://eumag.jp/feature/b0412/>

(参考)

- アクティブエイジングの考え方については、WHOが2002年の第2回WAAに提出したレポートに詳述(2007年10月、日本語版として出版)

> http://whqlibdoc.who.int/hq/2002/WHO_NMH_NPH_02.8_jpn.pdf

- 米国の高齢化に関する窓口です。

<http://www.usa.gov/directory/federal/administration-on-aging.shtml>

- 国連に関連するNGOのリスト、および高齢化に関するNGO Help Age International(国連人口基金が2年前に出した「Ageing in the Twenty-First Century」の共同執筆団体の1つでもあります)

<http://undesadspd.org/Ageing/InternationalDayofOlderPersons/1998/UNNGO>

CommitteeonAgeing.aspx

<http://www.helpage.org/>

- 国連に関わるブログ「高齢化に関するグローバルアクション」

<http://globalaging.blogspot.jp/>

- 下記は、オンライン情報誌 Curve

http://curve.gettyimages.com/article/new_old_JP

- EU でもイノベーションの議論がなされています。

http://ec.europa.eu/research/innovation-union/index_en.cfm?section=act

ive-healthy-ageing&pg=about

◎RE: 高齢化世界会議の件

岡本 憲之 [okamoto@npo-jtta.jp]

2014/08/28 (木) 7:57

'michio ozaki'

c c 'masanori horiuchi'

尾崎様、堀内様

岡本です。

こここのところ猛暑も一服といった天候ですが、お二方お元気そうで何よりと思っております。

9月4日は午後1時に日本記者クラブの方に、伺いますので、宜しくお願い致します。

From: michio ozaki [<mailto:michio1@jcom.home.ne.jp>]

Sent: Thursday, August 28, 2014 7:33 AM

To: '岡本 憲之'

Subject: RE: 高齢化世界会議の件

岡本様

電話ありがとうございました。もし都合付けば9月4日（木）堀内さんと一緒に記者クラブで午後1時にお会いできれば幸いです。老齡化検定試験で忙しい日々ではないかと想像しています。尾崎

From: 岡本 憲之 [<mailto:okamoto@npo-jtta.jp>]

Sent: Wednesday, July 09, 2014 9:00 AM

To: 'michio ozaki'; 'masanori horiuchi'; 'Masahiko NISHIUCHI'; 'Kiyoko IKEGAMI';

hayashi-reiko@ipss.go.jp; 'ilcJapan'; 村上清明

Cc: 岡本憲之

Subject: 高齢化世界会議の件

幹事会の皆様

岡本です。度々お騒がせして申し訳ありませんが、(月刊メルマガ)のフォーマットが確定するまでの間、幹事会の皆様から高齢化世界会議に関する情報をお寄せ頂いた場合、その都度幹事会の皆様全員に配信させて頂きたく存じますので、ご了承賜りたく宜しくお願ひ申し上げます。

今回は西内様よりお寄せ頂いた情報を中心に配信させて頂きます。

仮のメルマガ(当面、情報をお寄せ頂いた都度、配信致します)

仮のメルマガ(2014年7月9日)

I 国内外の新たな動き(WAAに関連する新たな動き)

・昨年1月に、「Global Commission on Ageing in Developing Countries」が北京で立ち上がっています。中国もWAAの招致を考えているのでしょうか?

<http://www.partners-popdev.org/ageing/>

II 賛同者の新たな言動(WAAに関連する言動)

・堀田力先生が平成26年7月吉日、さわやか福祉財団の理事長を退かれ、会長に就任されました。今後は新地域支援事業に力を尽くすとのこと。WAAの招致にも力を尽くして頂けると有り難いのですが・・・(仮に堀田先生が賛同者になって下さった場合の記事例です)

III 幹事会の皆様の新たな言動(WAA招致に関連する言動)

・国連のアジア太平洋経済社会委員会(ESCAP)は、独自にこの地域の高齢化に対応する会議やマドリード行動計画の評価のための会議を開いています。もし2018年に日本でアジアエイジングサミットを開催することを考えるのであれば「アジア太平洋地域(ESCAP)エイジグサミット」にしては如何でしょうか。国連が主催した3つの人口会議の前年には、ESCAP人口会議が開かれています。昨年も10年ぶりにバンコクでESCAP人口会議がありました。10年前には尾崎さんらと取材に行ったのですが、昨年は残念ながらパスでした(西内正彦)

追記

- ・ WAA 関連データ集の「その他（参考）」に、NGO 関連データを加えました。
- ・ 次回の幹事会は 8 月 18 日（月）の 15：00～17：00（於三菱総研）で決まりそうです。

以上

WAA 関連データ集（カテゴリー別→時系列に追加累積する形で更新）

国連の動き

- 第 4 回実質会合での春木彰子氏のステートメント（2013 年 8 月、英文）
<http://www.un.emb-japan.go.jp/jp/statements/haruki081213.html>
- 第 2 回 WAA のフォローアップ会議、第 67 回国連総会（2013 年 2 月、英文）
http://www.un.org/en/ga/search/view_doc.asp?symbol=A/RES/67/143
- 第 2 回 WAA のフォローアップ会議、第 66 回国連総会（2012 年 3 月、日本語訳）
http://www.unic.or.jp/files/a_res_66_127.pdf
- 第 2 回 WAA のフォローアップ会議に関する具体的作業を行う場として、国連の中に高齢化作業部会が設置された。その第 1 回実質会合での日本代表からのステートメントは以下の通り（2011 年 4 月、日本語）。
http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/enzetsu/23/un_0418.html
- 第 2 回 WAA 政治宣言（2002 年、日本語訳）
<http://www8.cao.go.jp/kourei/program/madrid2002/pd2002.html>
- 高齢化に関するマドリッド国際行動計画 2002（第 2 回 WAA、日本語訳）
<http://www8.cao.go.jp/kourei/program/madrid2002/plan2002.html>

（参考）

- 第 2 回 WAA ロゴ（2002 年）
<http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2003/zenbun/html/F2211200.html>
- 国際高齢者年のロゴ「全ての世代のための社会をめざして」（1999 年）
http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2000/zu_141.htm

日本政府の動き（外務省、厚労省等）

- 厚生労働省の ASEAN アクティブエイジングの地域会合の情報。
日本の経験をアジアに伝えるプロジェクトが動き出しそう（2014 年 6 月）
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000047645.html>

- JICA が高齢化と国際人口移動に関するシンポジウムを開催（2014年5月）

http://jica-ri.jica.go.jp/ja/topic/post_119.html?alert=20140616

- 「ASEAN・日本社会保障ハイレベル会合」の概要（2013年12月）

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kokusaigyomu/asean/2013/kekka.html>

その他（海外の動き等）

- 国連人口基金の報告書（2012年10月、日本語版）

<http://www.unfpa.or.jp/publications/index.php?eid=00034>

- 「アクティブエイジングと世代間の連帯のための欧州年」と定めた（2012年）

<http://eumag.jp/feature/b0412/>

（参考）

- アクティブエイジングの考え方については、WHOが2002年の第2回WAAに提出したレポートに詳述（2007年10月、日本語版として出版）

http://whqlibdoc.who.int/hq/2002/WHO_NMH_NPH_02.8_jpn.pdf

- 国連に関連するNGOのリスト、および高齢化に関するNGO Help Age International（国連人口基金が2年前に出した「Agein in the Twenty-First Century」の共同執筆団体の1つでもあります）

<http://undesadspd.org/Ageing/InternationalDayofOlderPersons/1998/UNNGOCommitteeonAgeing.aspx>

<http://www.helpage.org/>

◎地方の人口減少に歯止めを（提言）

岡本 憲之 [okamoto@npo-jtta.jp]

2014/08/28 (木) 8:31

'michio ozaki'; 'masanori horiuchi'; 'Masahiko NISHIUCHI'

尾崎様、堀内様、西内様

岡本です。今回は高齢化世界会議に関係ない話で恐縮ですが、例の人口減少による自治体消滅の可能性に歯止めをかけるため政府が9月にも立ち上げると言っている地方創生本部に関連して、当方の理事が提言をまとめましたので、連絡させていただきます（提言は以下のURLからご覧下さい）。

<http://www.npo-jtta.jp/information/information1409.pdf>

若年者（特に若年女性）の減少に主眼が置かれているテーマであるため、高齢者の話が余り出てこないのは残念ですが、地方での女性起業家づくりや二地域居住などエイジング・イノベーションの参考になる部分もかなりあると思われますので、是非本文も読んで頂けると幸いです。